小樽市経済動向調査結果

１．調査期間：2020年7月から9月
２．調査対象：小樽市内の企業272社
３．内　　訳：製造業61、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業47
　　サービス業39、建設業34
４．回答企業数：214社（78.6％）
５．調査方法：調査票によるアンケート

※ＤＩ（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・
好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概　　況

ー　市内景況は、悪化している　ー

前年同期（2019年7月～9月）と比べた今期（2020年7月～9月）の状況
今期と比べた来期（2020年10月～12月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲49.4で、前年同期と比べ46.1ポイントと大幅に低下しました。前期実績値から若干マイナス幅が縮小したものの、新型コロナウイルスの流行拡大による需要の停滞で業況の悪化から抜け出せない状況が続いており、全ての業種で業況DIが低下しました。

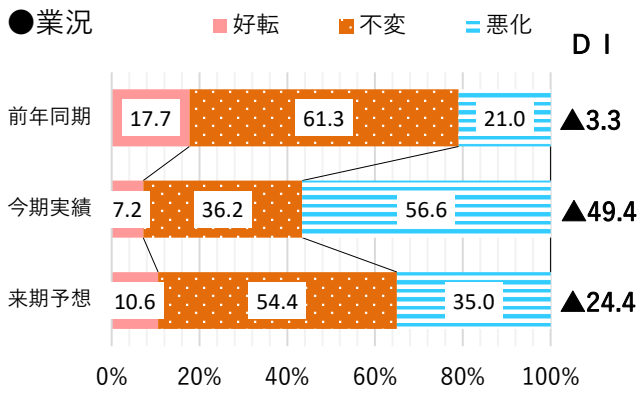
業種別DIは、製造業が同51.0ポイント低下の▲51.0となりました。設備操業率の低下や引合いの減少等、需要の停滞傾向が強く表れています。卸売業は同69.1ポイント低下の▲60.0となりました。業況、売上、採算がいずれも大幅なマイナスに転じており、製造業同様に引合いが減少しました。小売業は同9.2ポイント低下の▲40.0となりました。売上の減少幅が特に大きいものの、前期に引き続き、大型店では客単価が上昇傾向にあります。運輸・倉庫業は同26.0ポイント低下の▲31.6となりました。旅客運送は全ての企業で、貨物運送は約８割の企業で売上が減少したとの回答がありました。倉庫は売上の減少傾向が落ち着いたものの、入出庫量の伸び悩みが懸念されます。観光業は同75.1ポイント低下の▲97.3となりました。業況、売上、採算全てのDI値が▲90.0を下回っており、前期から従業員数の過剰傾向が続いている等、依然とした新型コロナウイルスの影響が深刻な状況にあります。サービス業は同68.4ポイント低下の▲46.6となりました。業況、売上、採算全てがマイナスに転じました。飲食業の売上、客数の減少、採算の悪化が顕著です。前期に引き続き、需要の停滞、利用者ニーズの変化への対応が主な課題です。建設業は同24.3ポイント低下の▲19.3となりました。受注額と引合いがマイナスに転じており、工事需要の停滞が懸念されます。前期同様、従業員DIはプラスに転じましたが、依然として従業員不足が主要な課題です。

来期の業況判断DIは▲24.4で、悪化傾向が弱まると予想しています。回復しつつある経済活動や、ＧｏＴｏキャンペーンの活用等による業況の改善が期待される一方で、新型コロナウイルスの流行による先行きの不透明感や、流行が続くことによる更なる業況の悪化が懸念されており、回復には時間がかかることが予想されます。

業況、売上、採算

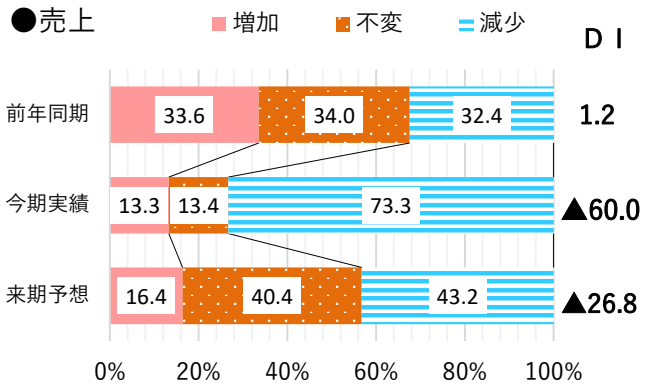
今期（2020.7～9）の業況判断DIは▲49.4で、前年同期(2019.7～9)と比べ46.1ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期（2020.10～12）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



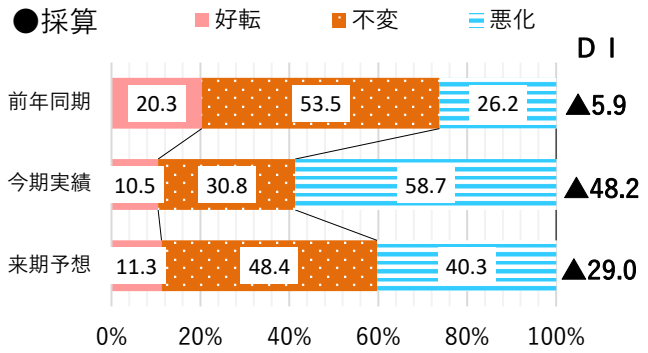
今期の売上DIは▲60.0で、前年同期と比べ58.8ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

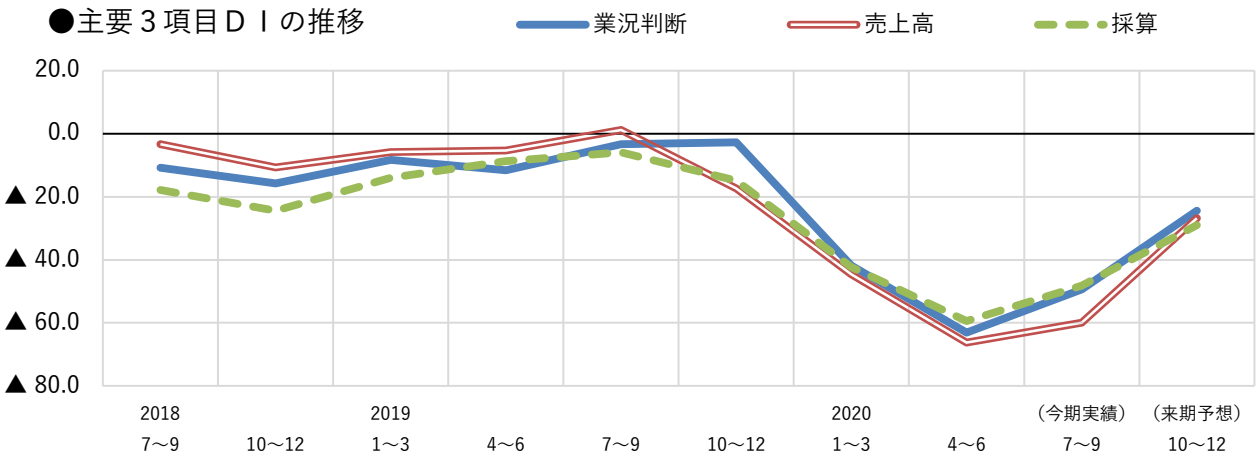
来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲48.2で、前年同期と比べ42.3ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。

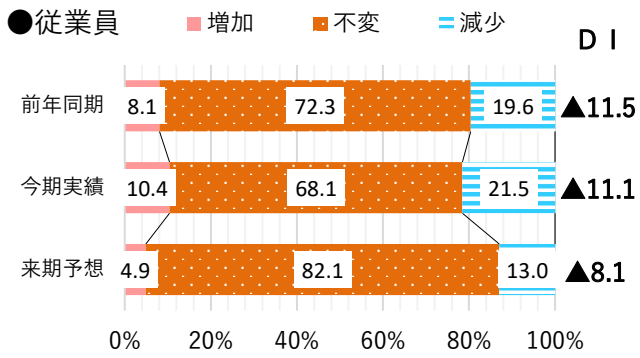




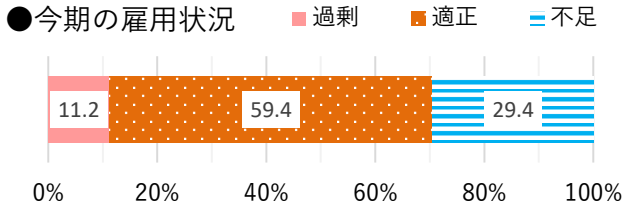
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.1で、前年同期と比べ0.4ポイント上昇しました。

来期は、従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は11.2%、適正であると回答した企業の割合は59.4%、不足していると回答した企業の割合は29.4%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の44.8%を占めています。

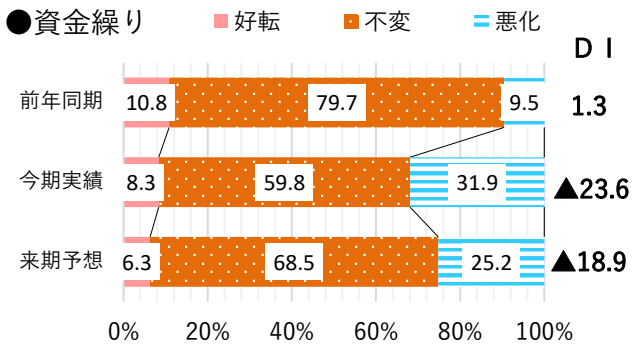
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	16
	不足	6
不変だった	過剰	17
	適正	96
	不足	30
減少した	過剰	11
	適正	13
	不足	24

資金繰り、設備投資

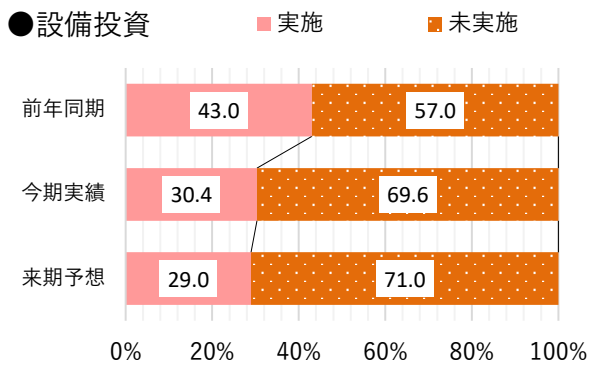
今期の資金繰りDIは▲23.6で、前年同期と比べ24.9ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった214社の30.4％にあたる65社が実施、前年同期と比べ12.6%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、「ＯＡ機器」（同位）、2位が「生産設備」の順です。

来期は、29.0%にあたる62社が設備投資を計画していると回答しています。

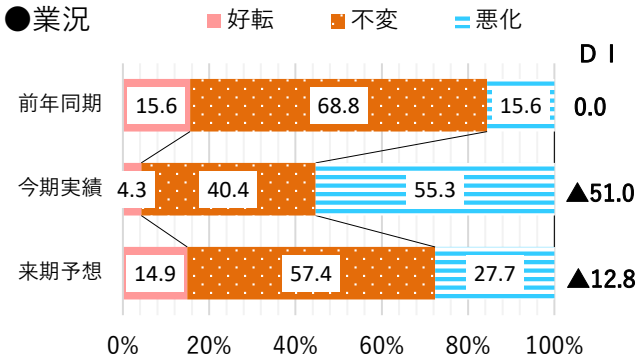


製　造　業

業況、売上、採算

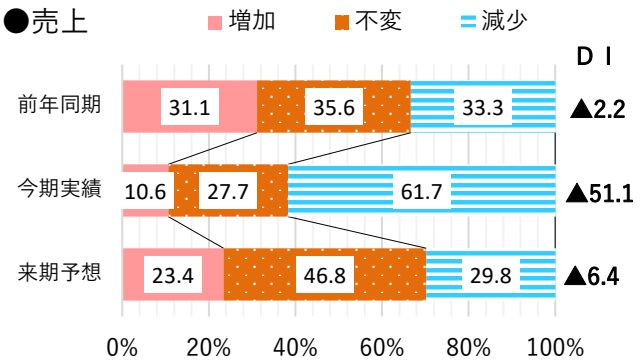
今期(2020.7～9)の業況判断DIは▲51.0で、前年同期(2019.7～9)と比べ51.0ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期(2020.10～12)は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



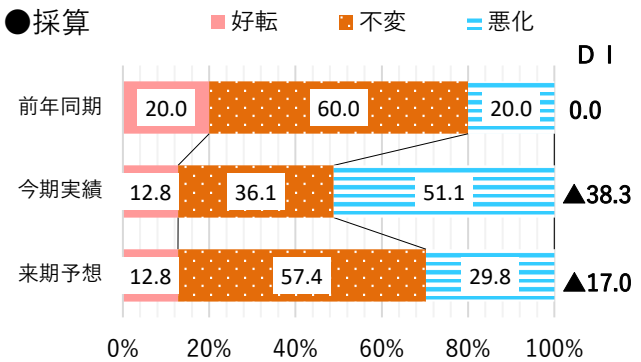
今期の売上DIは▲51.1で、前年同期と比べ48.9ポイント低下し、大幅に減少しました。

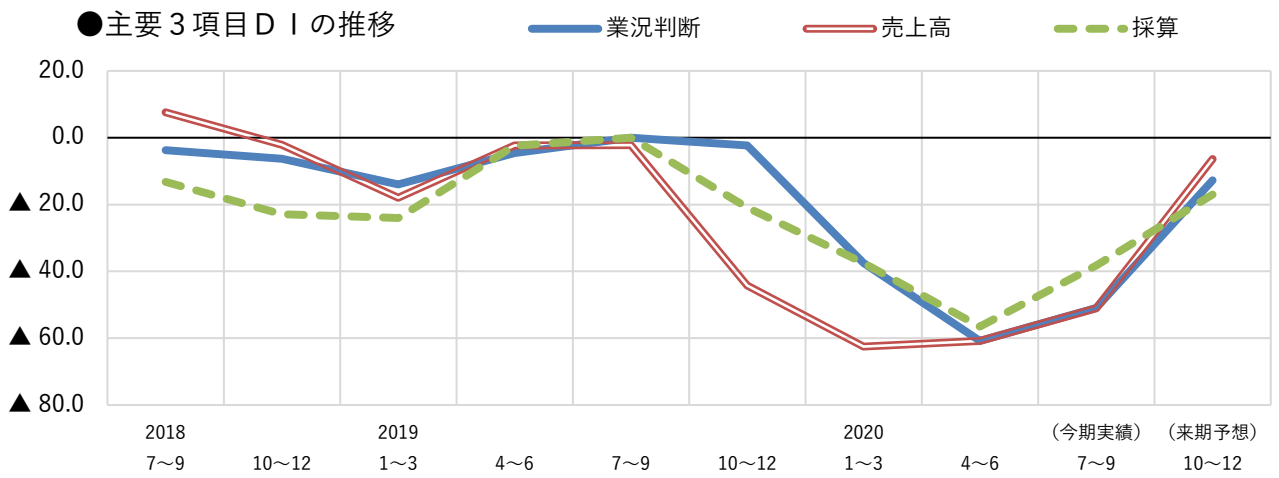
来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲38.3で、前年同期と比べ38.3ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。

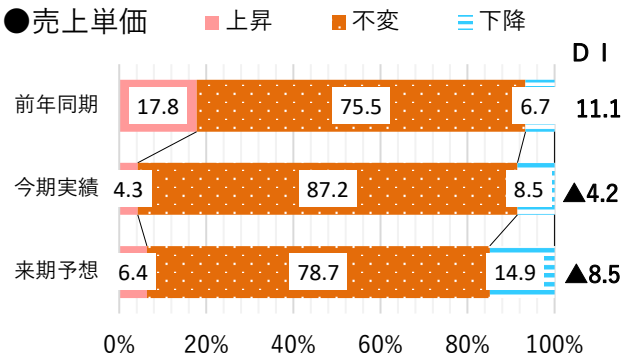




売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

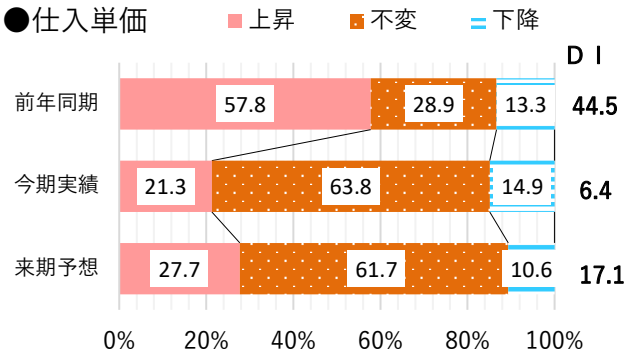
今期の売上単価DIは▲4.2で、前年同期と比べ15.3ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、売上単価の悪化傾向が強まると予想しています。



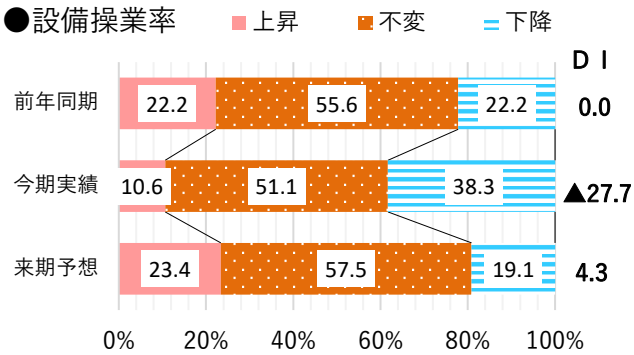
今期の仕入単価DIは6.4で、前年同期と比べ38.1ポイント低下し、大幅に下降しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲27.7で、前年同期と比べ27.7ポイント低下しました。

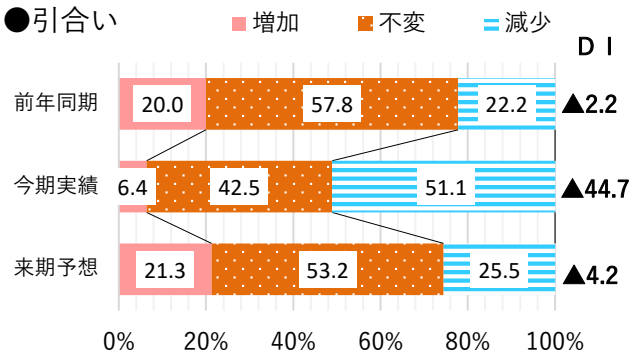
来期は、設備操業率が大幅に上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲44.7で、前年同期と比べ42.5ポイント低下し、大幅に減少しました。

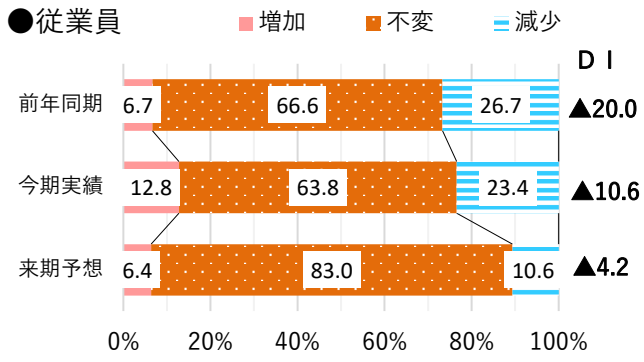
来期は、引き合いの減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



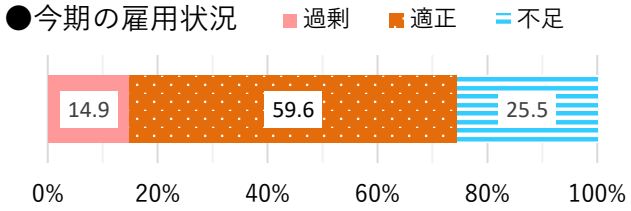
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲10.6で、前年同期と比べ9.4ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は14.9%、適正であると回答した企業の割合は59.6%、不足していると回答した企業の割合は25.5%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の44.6%を占めています。

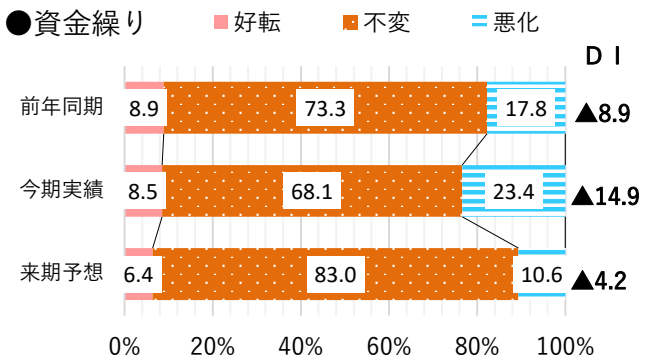
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	4
	不足	1
不変だった	過剰	5
	適正	21
	不足	4
減少した	過剰	1
	適正	3
	不足	7

資金繰り、設備投資

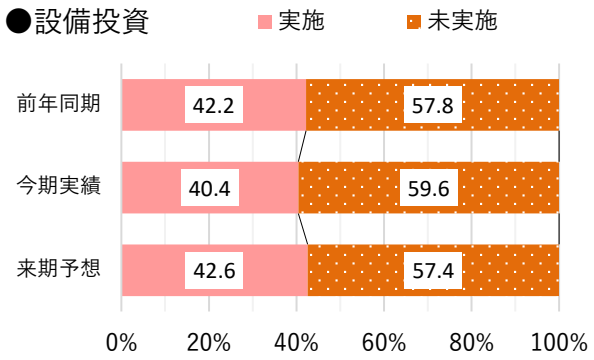
今期の資金繰りDIは▲14.9で、前年同期と比べ6.0ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



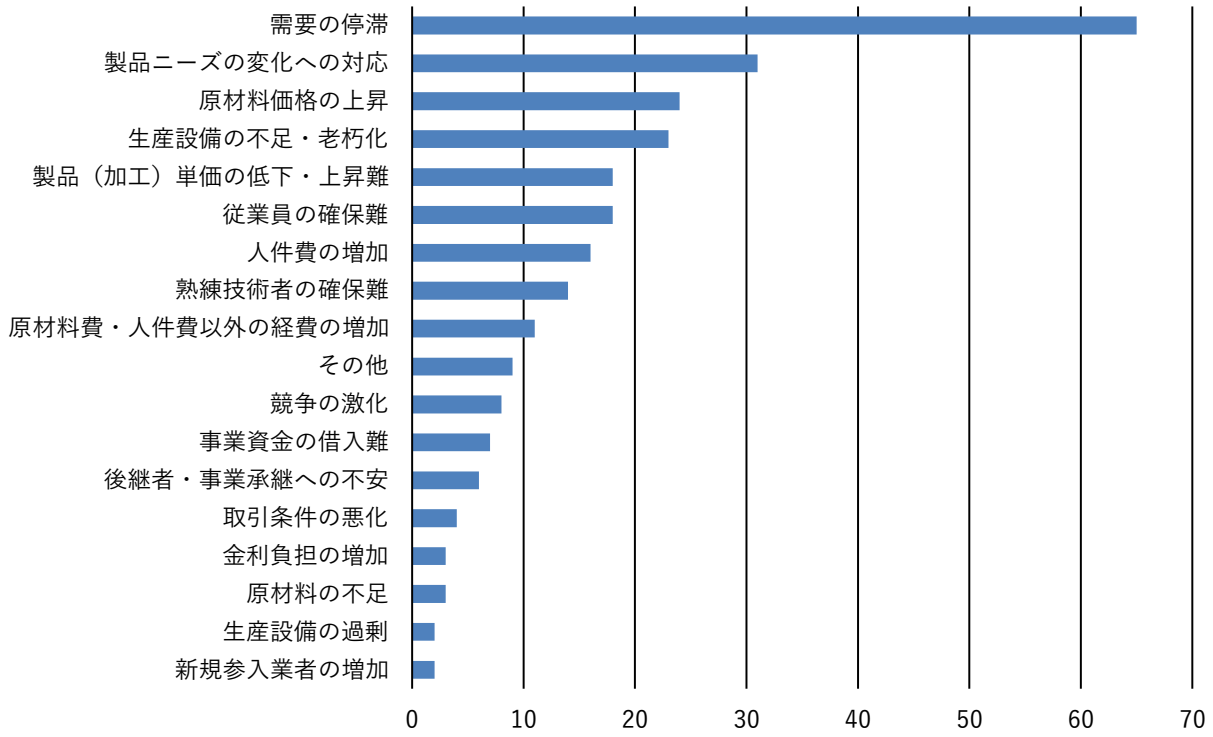
設備投資を実施した企業の割合は40.4%で、前年同期と比べ1.8%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は42.6%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「製品ニーズの変化への対応」、3位が「原材料価格の上昇」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■売上は増加し、本年度のピークとなった。金属関係の原材料単価の上昇傾向が報道されているが、自社はまだ影響を受けていない。（金属製品）

■前期と比べ切板需要は増加傾向だが、製缶類の引合いと受注は伸び悩んでいる。（金属製品）

■鮭定置網漁が不良のため、業況は悪化した。（金属製品）

■顧客、仕入先共に状況に変化はない。（金属製品）

■新型コロナウイルスの影響で、取引先が操業日数を減らし、設備計画を先送りしているため、売上が減少した。（機械器具）

■原材料仕入価格は、ナフサの価格に連動したため下降した。新型コロナウイルスの影響で、食品関係商品の売上が減少した。（プラスチック）
■建築業者からの受注が減少したが、他業種からの受注は増加した。（プラスチック）
■新型コロナウイルスによる影響は小さいほうだと思う。（プラスチック）
■新型コロナウイルスの影響により、観光土産品関係の紙製容器需要と段ボール需要が低下しており、売上が減少した。原材料仕入単価は取引の都度値下げ交渉をしているが、前期とほぼ変わらない。（紙製品）
■コロナ禍の中、需要の停滞が続く。（紙製品）
■景気の低迷が実感されるようになった。（ゴム製品）
■新型コロナウイルスによる売上の減少が続いている。（医薬品）
■新型コロナウイルスの影響で、受注が減少した。（衣服）
■新型コロナウイルスの影響が徐々に現れている。大手との商談ができず、見込売上高が減少した。特殊原料の価格上昇や仕入難のため、生産量が不足している。人材は採用しやすい状況にある。（食料品）
■新型コロナウイルス感染症の影響は甚大で、５月に最低水準まで低下した売上は現在回復傾向にあるが、対前年比では３０％程度であり、十分に回復できていない。（食料品）
■天候不順とコロナ禍の影響で、飲料等夏物商品の売上は前年割れだった。お盆商材は辛うじて前年並みの売上となったが、全般的な消費の弱さは変わらない。（食料品）
■前々期に販売を開始した加工品の売上が堅調に推移した。主力原材料の生産量減少と、仕入単価上昇に伴う仕入数量抑制により資金繰りに余力がある。（食料品）
■新型コロナウイルスの影響で、売上が見込める得意先と見込めない得意先が明瞭になった。新型コロナウイルスの影響は長期化するだろう。（食料品）
■製造業者向けの売上が約８０％減少したため、スーパー等小売店向けの売上だけでは歯止めがかからず、今後の見通しが立たない。（食料品）
■売上は前年同期比９６％となった。原材料仕入価格が上昇した。平均２％の賃上げを実施した。（食料品）
■原材料仕入単価が上昇した。短期雇用の人材は確保できたが、正社員が不足している。（食料品）
■取引先が内食、外食ともに取り扱っているため、売上は大きく落ち込まなかった。（食料品）
■コロナ禍の中、巣ごもり需要によって売上の落ち込みを最小限に押さえることができた。（飲料）

［来期の業況について］
■本州では原材料価格引き下げを求める圧力が強まっており、北海道も影響を受けることが予想される。製缶需要は今期同様不透明である。（金属製品）
■工期の延期により、年度当初の予定より売上の減少を見込んでいる。コロナ禍によって中断していた案件が再開する予定である。（金属製品）
■当社が影響を受けている業界の設備投資額が減少し、業況は悪化すると思われる。（金属製品）
■鮭定置網漁の状況に左右される。（金属製品）
■新型コロナウイルス終息の兆しが見えない限り、好転は見込めない。（機械器具）
■原材料仕入価格の上昇を見込む。工事関連の受注は減少するだろう。（プラスチック）
■建築業者からの受注の動向は見通しが立たない。（プラスチック）
■紙製容器と段ボールの顧客開拓、販売拡大の結果が出始めると思われる。原材料仕入単価の値下げは、販売拡大上必要なものについて強力に要請し、加工賃の確保につなげる。人員は過剰気味のため、削減を検討する。（紙製品）
■新総理大臣のもとでの経済政策に期待している。（紙製品）
■新型コロナウイルスの状況は予測できない。（ゴム製品）
■新型コロナウイルスによる不況からの回復を見込むが、部分的なものに留まると思われる。（医薬品）
■売上の見通しが全く立たない。（家具建具）
■新型コロナウイルスの影響で営業活動、打合せが不十分なため、予測がつかない。（その他繊維製品）
■コロナ禍がいつまで続くのか不安である。オリンピックに向けた数百万人分の食材が余剰となり、営業冷凍庫に空きが無いとの情報がある。どこまで景気が停滞し、不景気となるか見当がつかない。（食料品）
■主力製品の需要が高まる時期のため、売上の増加を見込む。仕入単価、仕入数量はほぼ確定しており、販売単価の引き上げを予定している。コロナ禍の影響は不透明である。（食料品）

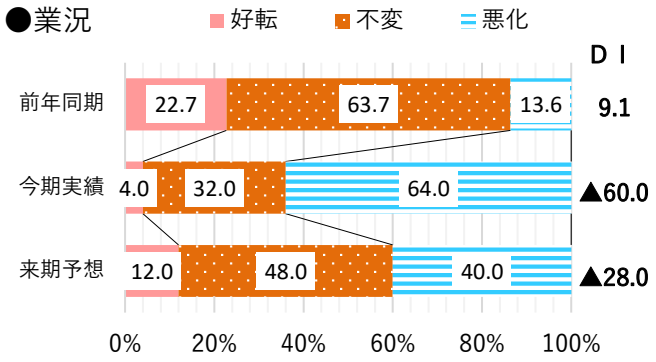
■北海道物産展、本州のアンテナショップに動きが出てきたが、力強さは感じられず、年末商戦に向けた見通しも立っていない。（食料品）
■例年並みの売上を見込む。原材料価格は若干下降するだろう。平均２％の賃上げを予定する。（食料品）
■取引先の主原料である水産物の確保が難しくなってきており、業況への影響が予想される。（食料品）
■ネット通販事業を本格化させる。売上を期待している。（食料品）
■閑散期に入る。例年と同程度の売上を予想する。（食料品）
■繁忙期に入るが、見通しが立っていない。（食料品）
■設備増設による生産性向上に取り組む。（食料品）
■新商品による売上の増加が見込めるが、新型コロナウイルスの感染拡大ならびにインフルエンザの流行期に入るため、不安要素も多い。今期の落ち込みを挽回できるよう、新しい販促策を企画したい。（飲料）

卸　売　業

業況、売上、採算

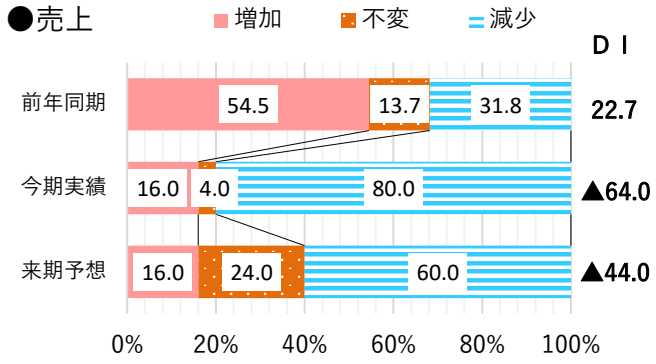
今期(2020.7～9)の業況判断DIは▲60.0で、前年同期(2019.7～9)と比べ69.1ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期(2020.10～12)は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



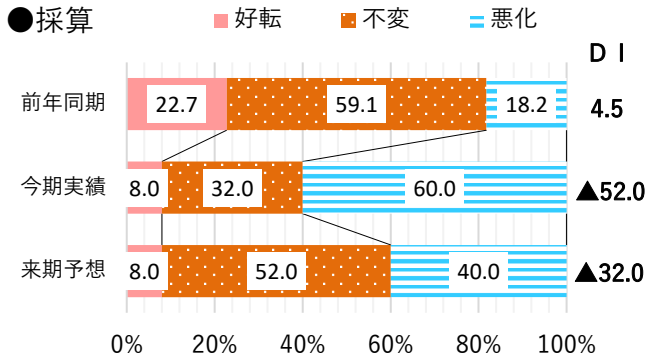
今期の売上DIは▲64.0で、前年同期と比べ86.7ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

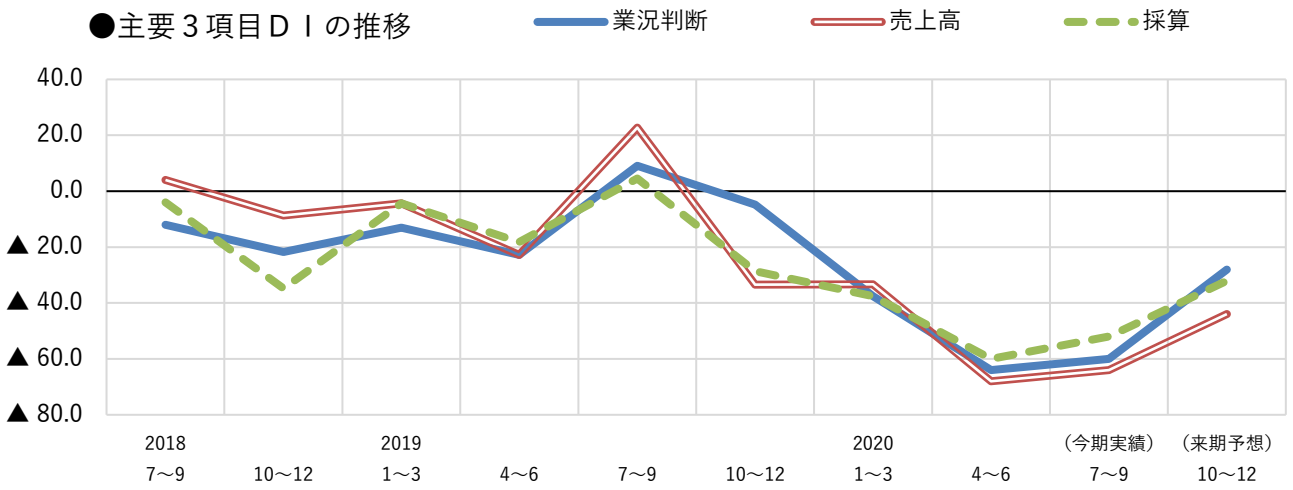
来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲52.0で、前年同期と比べ56.5ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。

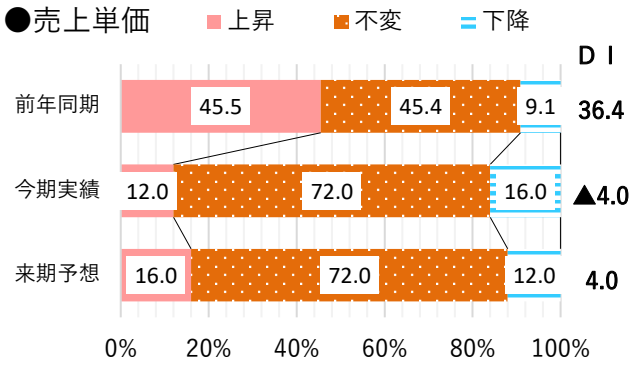




売上単価、商品仕入単価

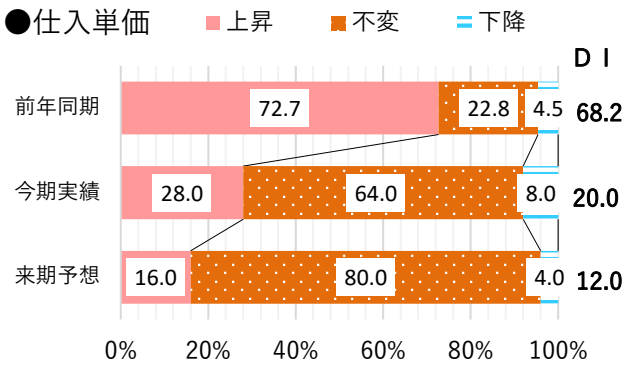
今期の売上単価DIは▲4.0で、前年同期と比べ40.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、売上単価が上昇すると予想しています。



今期の仕入単価DIは20.0で、前年同期と比べ48.2ポイント低下し、大幅に下降しました。

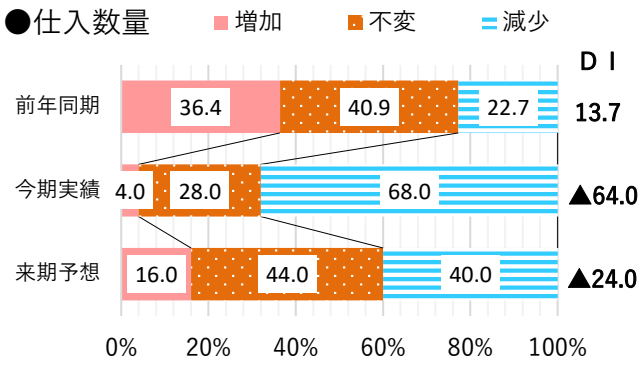
来期は、仕入単価に大きな変化はないと予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

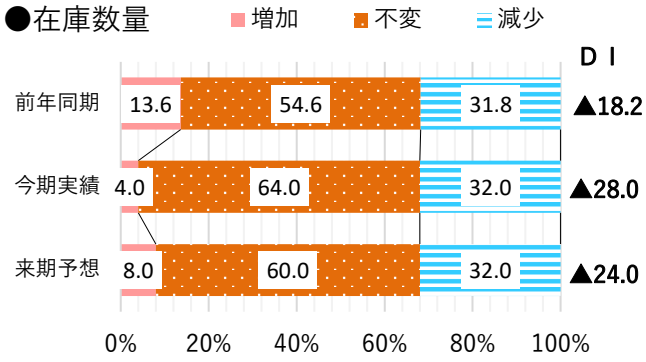
今期の仕入数量DIは▲64.0で、前年同期と比べ77.7ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、仕入数量の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲28.0で、前年同期と比べ9.8ポイント低下しました。

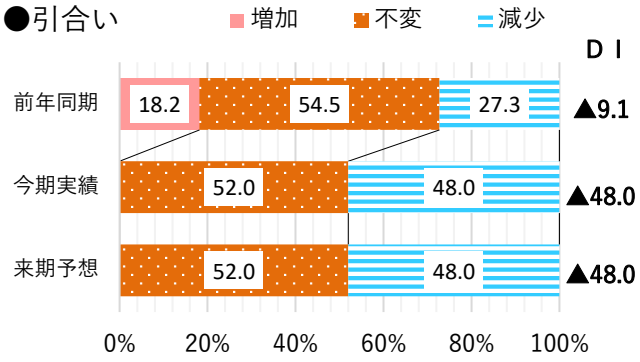
来期は、在庫数量の減少傾向に大きな変化はないと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲48.0で、前年同期と比べ38.9ポイント低下し、大幅に減少しました。

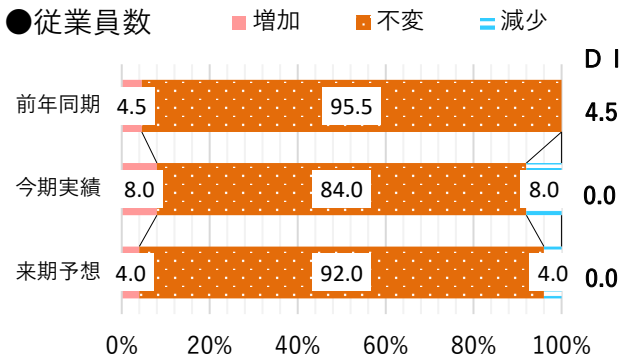
来期は、引合いの横ばいを予想しています。



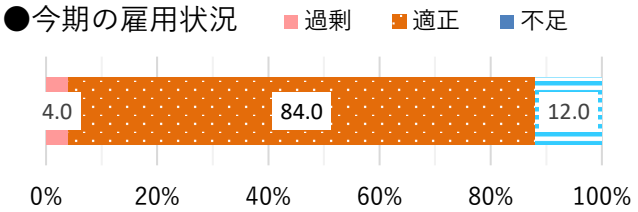
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ4.5ポイント低下しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.0%、適正であると回答した企業の割合は84.0%、不足していると回答した企業の割合は12.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の68.0%を占めています。

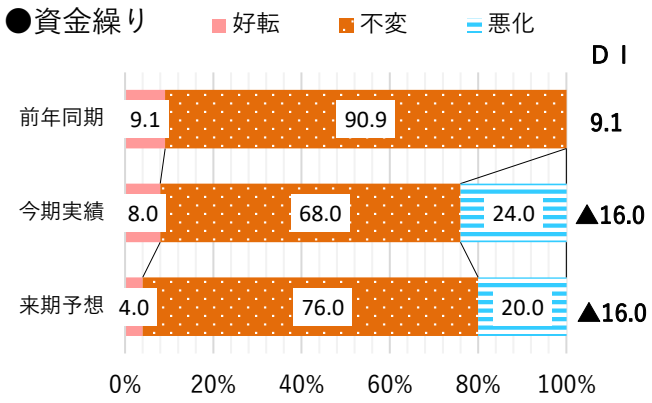
次いで多かった回答は「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	17
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	0

資金繰り、設備投資

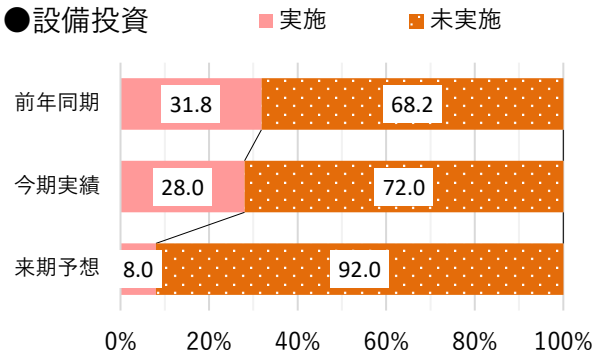
今期の資金繰りDIは▲16.0で、前年同期と比べ25.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



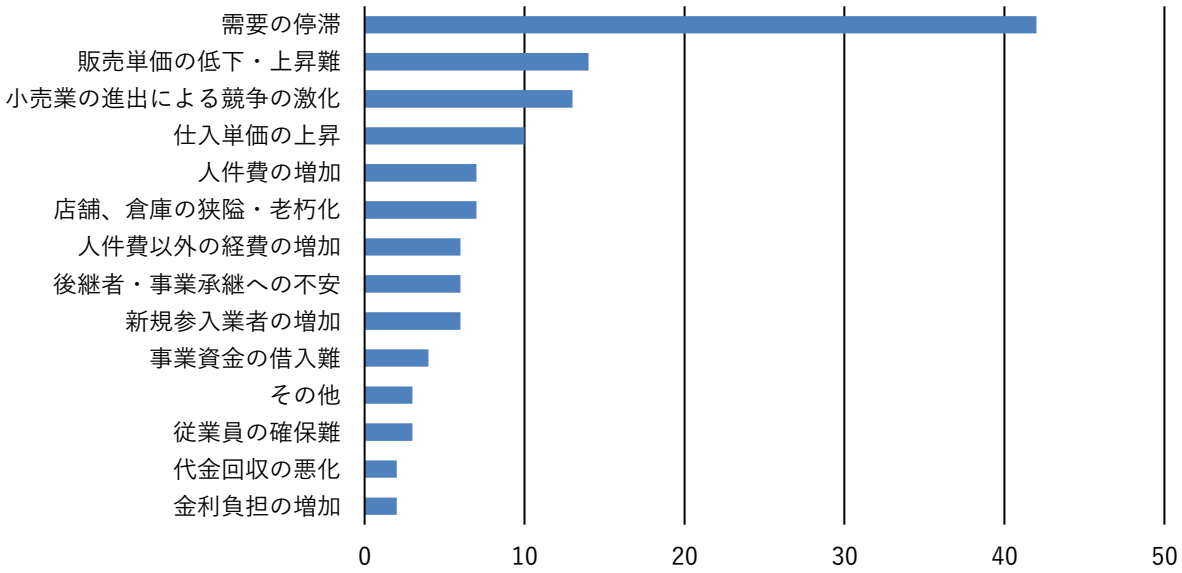
設備投資を実施した企業の割合は28.0%で、前年同期と比べ3.8%減少しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「土地」、「店舗」、「ＯＡ機器」、「福利厚生」、「その他」（同位）でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は8.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「需要の停滞」、2位が「販売単価の低下・上昇難」、3位が「小売業の進出による競争の激化」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■下期以降の引合い減少により、売上が減少した。採算は前年同期比で悪化した。（電気機械器具卸売）

■石油価格が低下したため、売上と仕入価格が低下した。（石油卸売）

■北海道新幹線工事、余市～共和間高規格道路建設工事の需要が好調である。セメント、骨材、鋼材等の売上が増加した。（建築材料卸売）

■観光関連業種への売上が減少した。国内観光客数は回復傾向にあるが、アジア圏の海外観光客が来ないと厳しい。（食料・飲料卸売）

■新型コロナウイルスによる休業、閉店、自粛等が発生しており、業況の好転要因は見当たらなかった。（食料・飲料卸売）

■好調だった前年同期と比較して売上が減少したが、例年と同程度の額で推移したため、悲観していない。（鉱物・金属材料卸売）

■例年季節の変り目の売上が良いため、冬に向けての商品需要の高まりに期待する。（自動車部品卸売）

■例年と比べ、売上が増加した。新型コロナウイルスの補助金に関連して、引き合いが増加した。（事務用品卸売）

■市内向けの売上が伸長しない。新型コロナウイルスの影響は小さく、例年程度の売上だった。（塗料卸売）

［来期の業況について］

■今期の業績と同等になれば良い方だと思われる。（電気機械器具卸売）

■新型コロナウイルスの状況が予想できないため、見通しを立てられない。（包装資材卸売）

■原油価格が安定するため、業況は大きく変わらないだろう。（石油卸売）

■北海道新幹線工事（後志地区）の工事がピーク期に入る為、建設資材の需要増が見込まれるが、原材料、運搬車両の供給不足も懸念される。（建設材料卸売）

■新規工事物件が少なく、売上の減少が見込まれる。今期まで新型コロナウイルスの影響は小さかったが、投資意欲の減退が一層強まり、苦戦すると思われる。（鉱物・金属材料卸売）

■10月～12月は冬期用品の在庫と売上が増加する。多雪の年である様に願う。（自動車部品卸売）

■補助金関係の業務があれば、売上の増加が期待できる。（事務用品卸売）

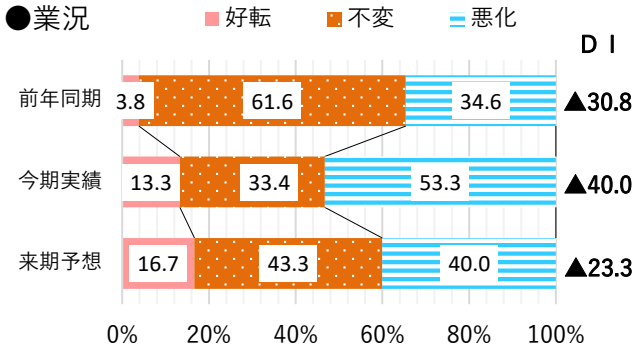
■新型コロナウイルスは終息しないと思うが、経済活動は活発になってきたため、売上増加を図りたい。（塗料卸売）

小　売　業

業況、売上、採算

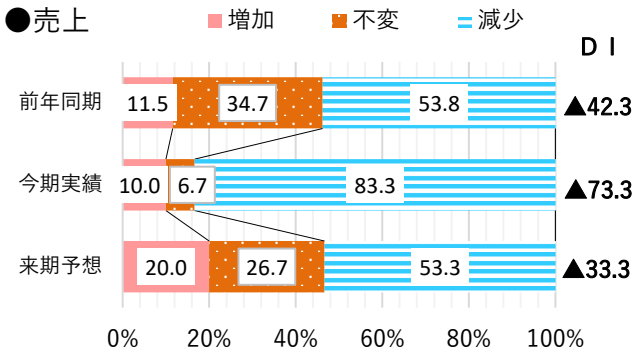
今期(2020.7～9)の業況判断DIは▲40.0で、前年同期(2019.7～9)と比べ9.2ポイント低下しました。

来期(2020.10～12)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



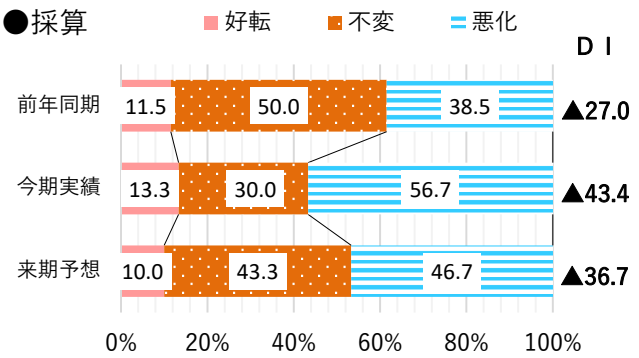
今期の売上高DIは▲73.3で、前年同期と比べ31.0ポイント低下し、大幅に減少しました。

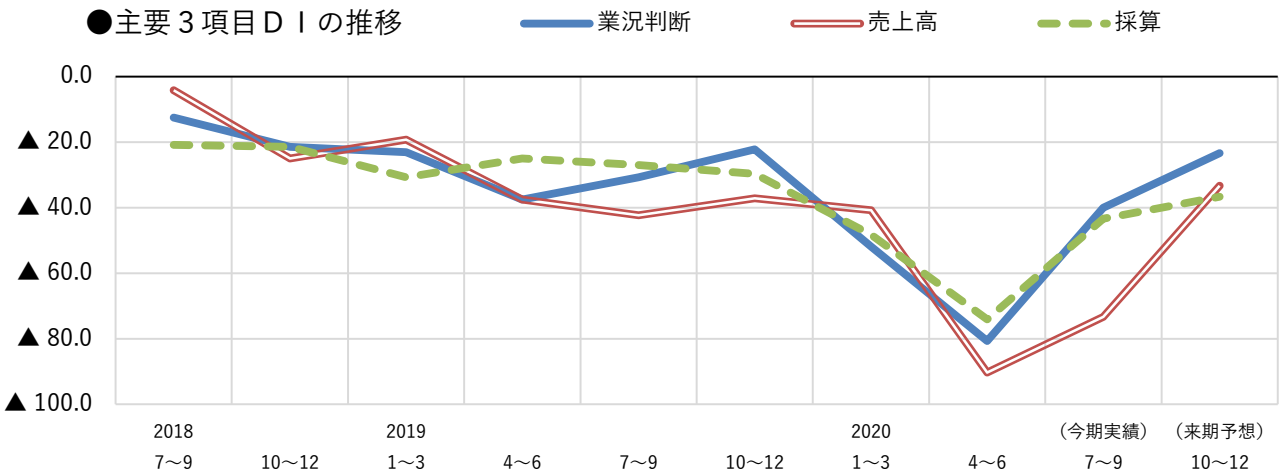
来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲43.4で、前年同期と比べ16.4ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。

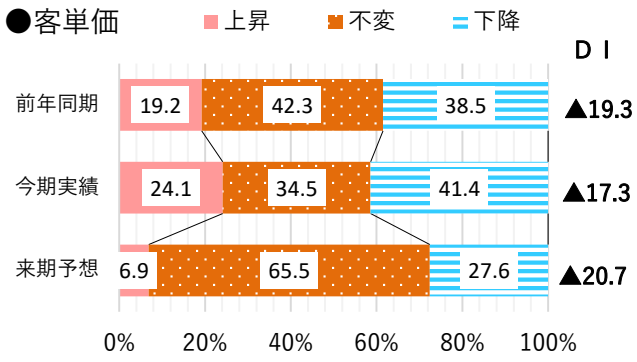




客単価、客数

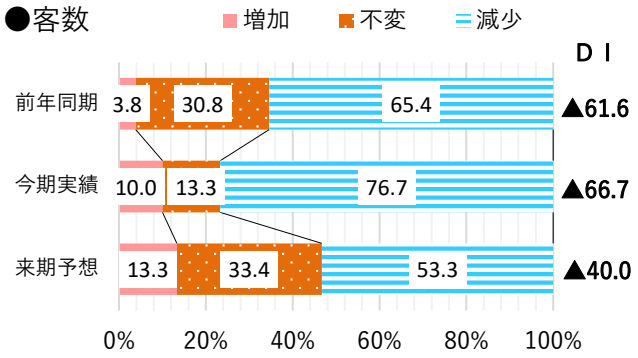
今期の客単価DIは▲17.3で、前年同期と比べ2.0ポイント上昇しました。

来期は、客単価の下降傾向に大きな変化はないと予想しています。



今期の客数DIは▲66.7で、前年同期と比べ5.1ポイント低下しました。

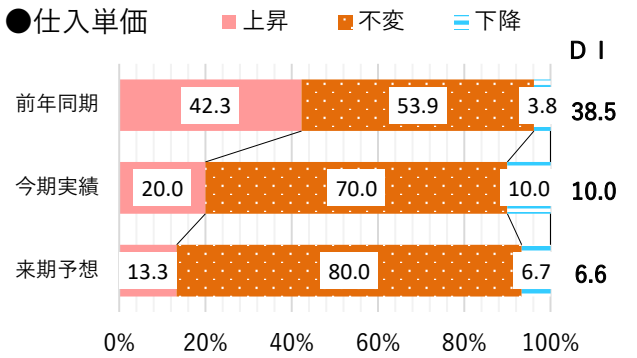
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

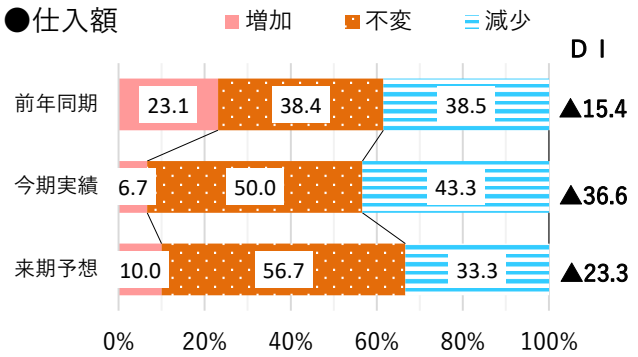
今期の仕入単価DIは▲10.0で、前年同期と比べ28.5ポイント低下しました。

来期は、仕入単価に大きな変化はないと予想しています。



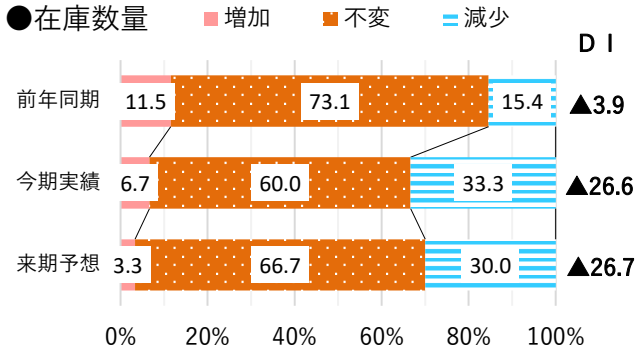
今期の仕入額DIは▲36.6で、前年同期と比べ21.2ポイント低下しました。

来期は、仕入額の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲26.6で、前年同期と比べ22.7ポイント低下しました。

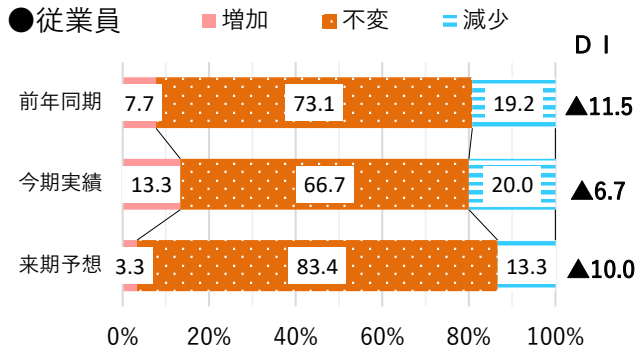
来期は、在庫数量のほぼ横ばいを予想しています。



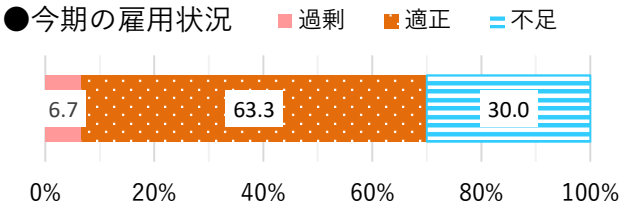
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲6.7で、前年同期と比べ4.8ポイント上昇しました。

来期は、従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は6.7%、適正であると回答した企業の割合は63.3%、不足していると回答した企業の割合は30.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の50.0%を占めています。

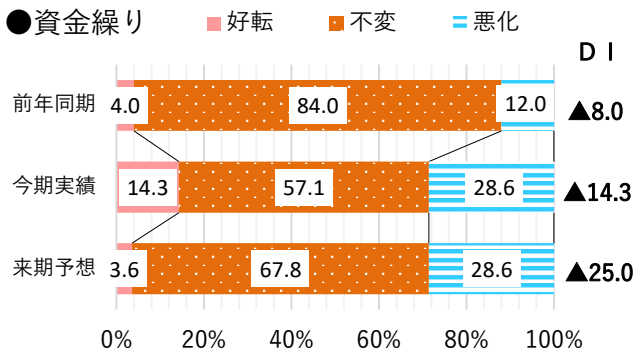
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	2
	適正	15
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	4

資金繰り、設備投資

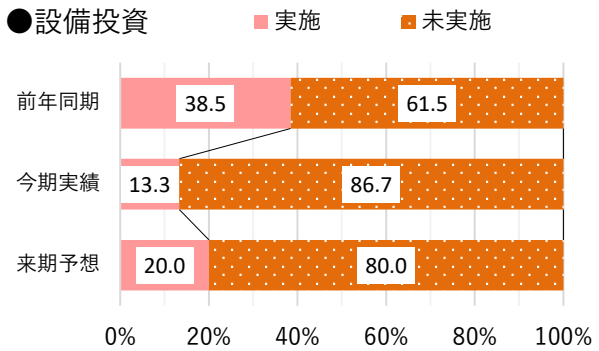
今期の資金繰りDIは▲14.3で、前年同期と比べ6.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向に大きな変化はないと予想しています。



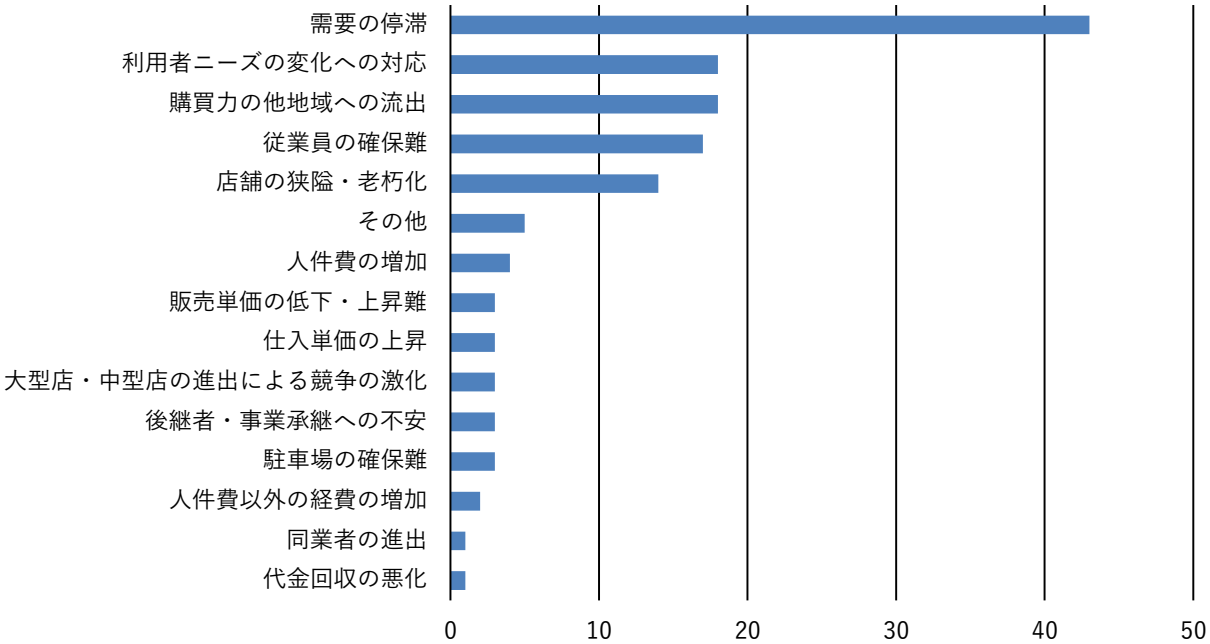
設備投資を実施した企業の割合は13.3%で、前年同期と比べ25.2%低下しました。投資内容は1位が「土地」、2位が「車両運搬具」、「付帯施設」、「ＯＡ機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は20.0%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、「購買力の他地域への流出」（同位）、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■観光関連施設への売上が落ち込んだが、徐々に回復している。外食産業も同様の傾向にある。店頭販売、ネット販売ともに好調である。（食料品小売）

■新型コロナウイルスの影響で、売上がやや減少した。病院のクラスターの影響で、市民の消費マインドが減退傾向にあると思われる。（食肉小売）

■お盆の売上は昨年並だった。（菓子製造小売）

■新型コロナウイルス感染拡大のために取り組んでいた営業時間の削減が解除されたことと、店舗数の増加により売上が増加した。（衣服・身の回り品小売）

■ネット販売の増加や新型コロナウイルスの影響で、売上と客数が減少した。（衣服・身の回り品小売）

■花園でクラスターが発生し、市民が外出を控えたため売上が減少した。（衣服・身の回り品小売）

■店頭販売が減少し、通販の売上が増加した。（衣服・身の回り品小売）

■コロナ禍の影響か、注文が減少した。（衣服・身の回り品小売）

■整備件数は前年並みだったが、車両の販売が減少した。先の見通しが立たないため、法人の動きが鈍い。（自動車小売）

■新型コロナウイルスの影響はほぼ無いが、新車を見に来る客数が減少した。（自動車小売）

■売上が減少した。収益構造が変化した。（自動車小売）

■人材確保に苦労している。（自動車小売）

■前期に引き続き、売上が伸長した。前年９月は、消費税増税前の駆け込み需要により酒や日用品の売上が伸長したが、本年は前年割れとなり、他の商品で売上の減少分をカバーしている。この流れが今後も続くと思われる。（大型店）

■全道の当社店舗の平均値と比較して、当店がある後志の業績は良くない。新型コロナウイルスによるインバウンドの減少が市場に大きな打撃を与えており、回復までの道のりは長いと思われる。（大型店）

■客数が減少し、業況が悪化した。（大型店）

■新型コロナウイルスによる業況の悪化は改善傾向にあるが、まだ楽観はできない。（ドラッグストア）

■消費税増税前の駆け込み需要が無いため、前年同期比の収支はマイナスとなった。（ホームセンター）

■例年と比べ気温が高い日が続いたため、夏物が売れた。取引先は新型コロナウイルスの影響を脱しておらず、業況が低迷しているようだ。（コンビニ）

■巣ごもりの影響か、売上額、利用客数ともに減少した。（コンビニ）

［来期の業況について］

■ネット販売を強化しており、売上の増加を見込んでいる。観光関連と外食産業の回復が期待される。前年比で伸長した店頭販売の売上を維持できるかが課題である。（食料品小売）

■新型コロナウイルスの先行きが見えないので、注文数の減少が続くのではないか。（菓子製造小売）

■景気の改善に期待したいが、人口や働く場の減少に伴って商品の販売力が低下し、更に厳しい状況に陥るのではないかと懸念している。（衣服・身の回り品小売）

■例年取扱商品の需要が高まる時期のため、売上の増加を見込んでいる。（衣服・身の回り品小売）

■通年販売の商品が安定的に売れると思われる。商品在庫は確保できている。（衣服・身の回り品小売）

■不安を感じている。同業者の廃業もやむを得ないだろう。（衣服・身の回り品小売）

■新型コロナウイルスの終息による明るい展望を期待する。（衣服・身の回り品小売）

■新商品販売開始のため、仕入額が増加する見込みである。収益への影響は来年以降だと思われる。（自動車小売）

■新型コロナウイルスの影響による解雇や減収の話が聞かれるので、車検はより安い店舗に流れると思う。（自動車小売）

■新型コロナウイルスの状況は変わらないと思われる。（自動車小売）

■利用客数の減少が見込まれる。（自動車小売）

■業況の好転に期待したいが、低迷が長引く状況では投資に厳しい判断が求められる。１年の中で最大商戦となる歳末に弾みをつけるため、早めに準備を行う。（大型店）

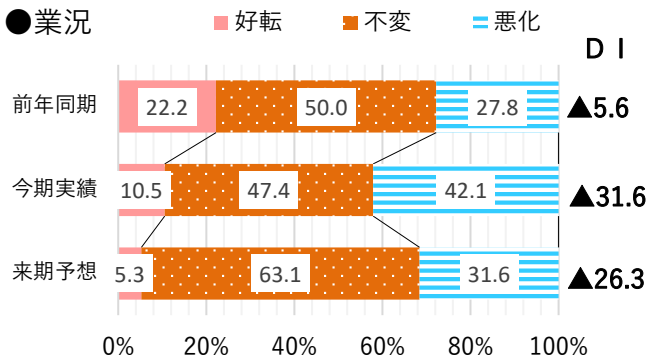
■インバウンド需要の持ちなおしに期待する。（大型店）
■新型コロナウイルスの状況に左右される。新たな取り組みの必要性を感じている。（ドラッグストア）
■新型コロナウイルス流行に伴う特需も落ち着き、売上は減少すると思われる。（ホームセンター）
■新型コロナウイルスやインフルエンザの動向に左右されるだろう。（コンビニ）
■新型コロナウイルスの終息を願う。（コンビニ）

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

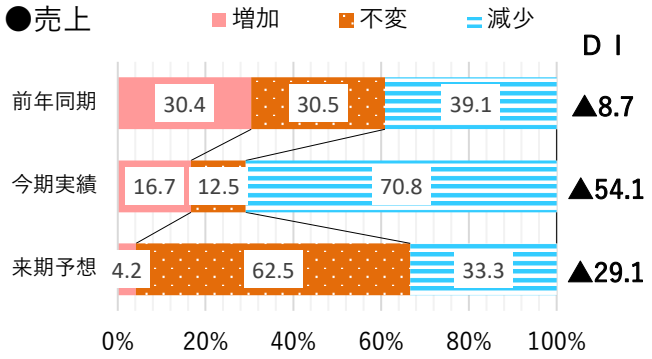
今期（2020.7～9）の業況判断DIは▲31.6で、前年同期（2019.7～9）と比べ26.0ポイント低下しました。

来期（2020.10～12）は、業況の悪化傾向に大きな変化はないと予想しています。



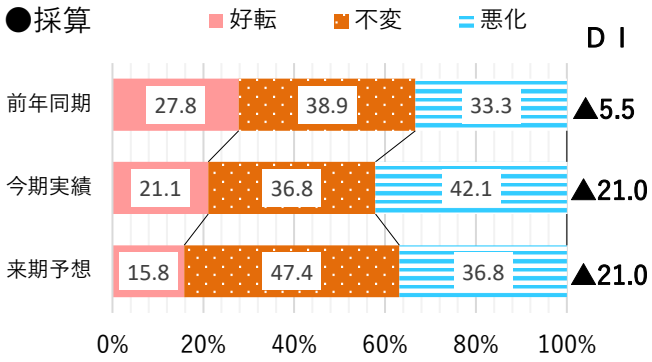
今期の売上高DIは▲54.1で、前年同期と比べ45.4ポイント低下し、大幅に悪化しました。

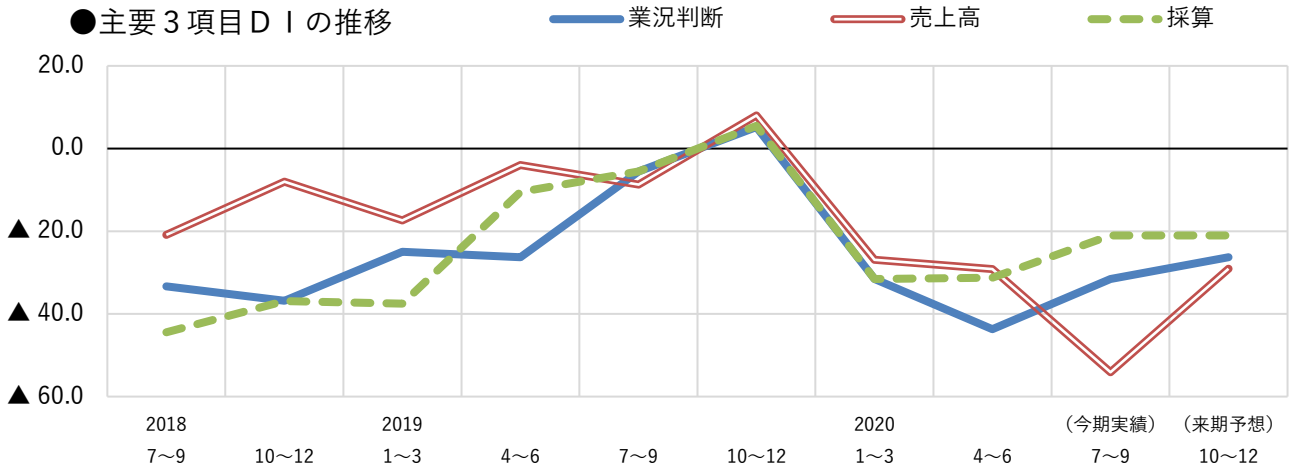
来期は、売上の悪化傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲21.0で、前年同期と比べ15.5ポイント低下しました。

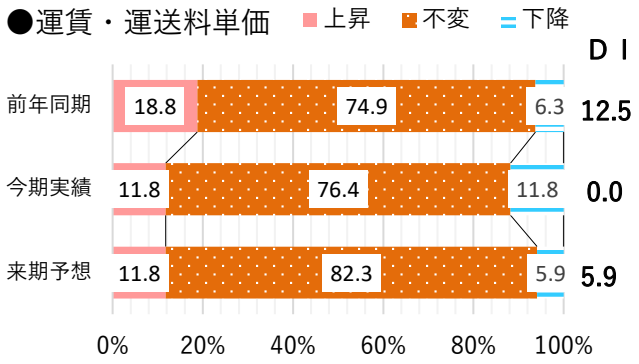
来期は、採算の横ばいを予想しています。



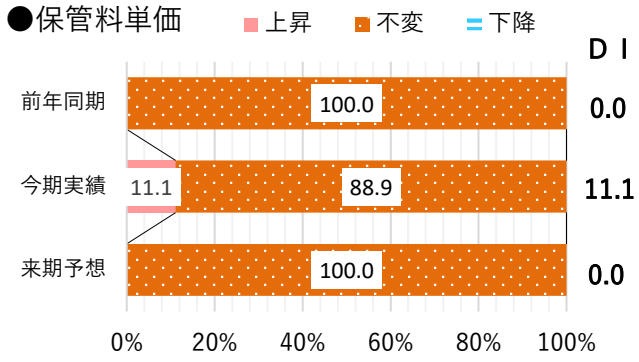


運賃・運送料単価、保管料単価

今期の運賃・運送料単価DIは0.0で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。
来期は、運賃・運送料単価が上昇すると予想しています。

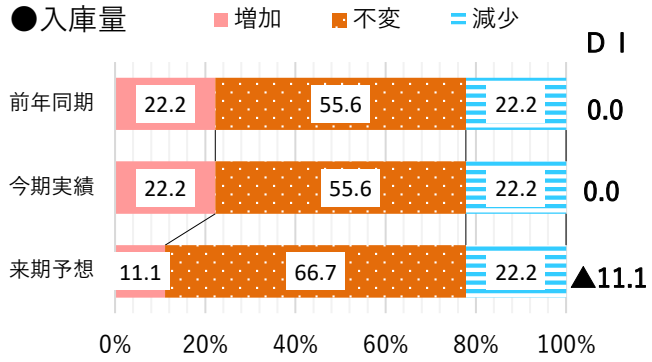


今期の保管料単価DIは11.1で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。
来期は、保管料単価に変化はないと予想しています。

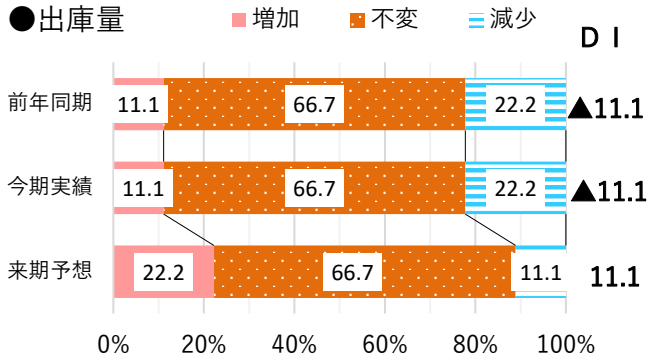


入庫量、出庫量、保管残高

今期の入庫量DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。
来期は、入庫量が減少すると予想しています。

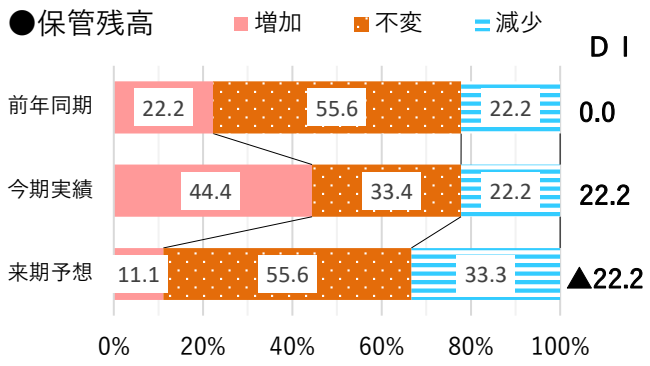


今期の出庫量DIは▲11.1で、前年同期と比べ横ばいとなりました。
来期は、出庫量が増加に転じると予想しています。



今期の保管残高DIは22.2で、前年同期と比べ22.2ポイント上昇しました。

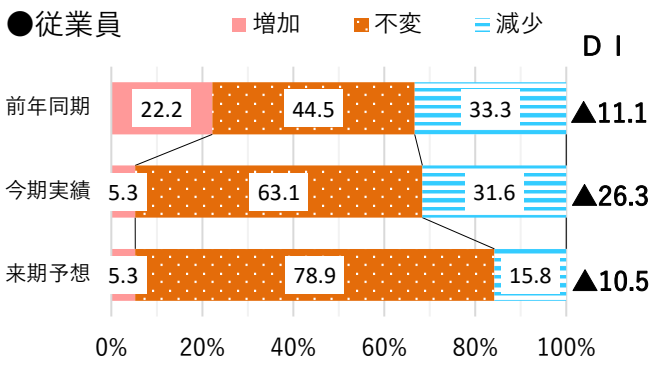
来期は、保管残高が減少すると予想しています。



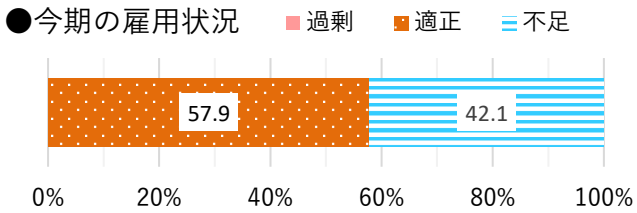
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲26.3で、前年同期と比べ15.2ポイント低下しました。

来期は、従業員の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は57.9％、不足していると回答した企業の割合は42.1％でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の57.8％を占めています。

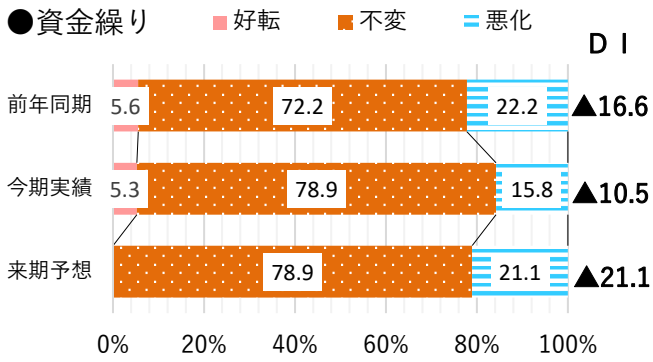
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	1
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	6

資金繰り、設備投資

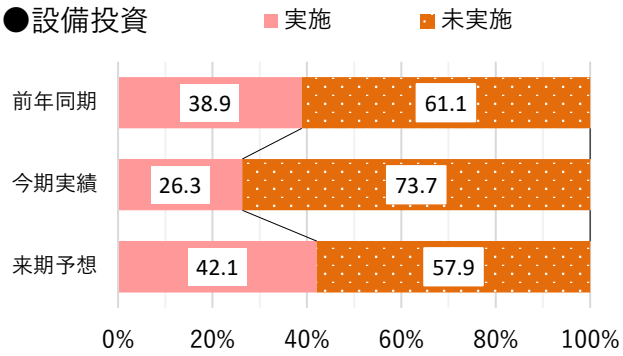
今期の資金繰りDIは▲10.5で、前年同期と比べ6.1ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



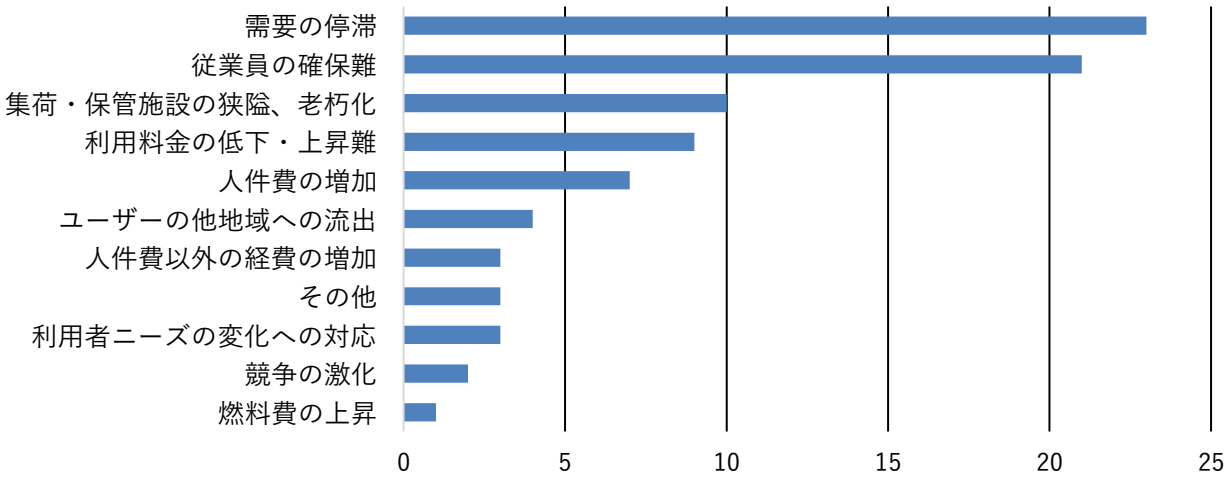
設備投資を実施した企業の割合は26.3%で、前年同期と比べ12.6ポイント低下しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「ＯＡ機器」、「その他」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は42.1％で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「従業員の確保難」、3位が「集荷・保管施設の狭隘、老朽化」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■昨年同期の業況も良くはなかったが、最近ようやく新型コロナウイルスの影響から脱しつつあり、昨年並みにまで回復した。コロナ禍がいつまで続くのか、不安である。（道路貨物運送）

■内麦等貨物の保管が前年より増加し、倉庫部門は増収となった。乗務員の減少により、人材不足である。（道路貨物運送）

■新型コロナウイルスの影響で大口の荷物の動きが悪い。燃料費は上昇傾向にある。（道路貨物運送）

■一部荷主の生産量減少に伴い、運搬量が減少した。（道路貨物運送）

■運転手不足のため、売上が減少した。（道路貨物運送）

■新型コロナウイルス感染拡大により、観光客・市民ともに利用が減少している。（道路旅客運送）

■コロナ禍によってタクシーの需要が伸び悩んでいる。（道路旅客運送）

■コロナ禍による地域経済の縮小を実感している。（道路旅客運送）

■今期は新型コロナウイルスの影響も多少出ており、出庫量が伸び悩んだため、運送料と売上が減少した。他に大きな変動はない。（倉庫）

■新型コロナウイルスの影響で入出庫量が減少したため、売上が減少した。（倉庫）

■入庫量が減少した。（倉庫）

■新型コロナウイルスの影響により、旅客の大幅な減少が続いている。飲食関係の営業自粛による消費の停滞や物流のあり方の変化を感じている。（水運）

［来期の業況について］

■稼働と売上がともに増える時期なので、悪化した業況を回復させたい。受注は確保できているので、事故などに気を付けて、経常利益を増やしたい。（道路貨物運送）

■一部荷主の生産量減少は続く見込みだが、他の荷主からの荷物は確保できるだろう。（道路貨物運送）

■業況は今期と同様と思われる。（道路貨物運送）

■新型コロナウイルスの影響が弱まらない限り、不変もしくは悪化が予想される。（道路旅客運送）

■新型コロナウイルスの影響はなく、例年と同水準の動きになるだろう。（倉庫）

■さらなる入庫量の減少と、出庫量の増加が予想される。（倉庫）

■新規事業によって売上が回復すると思われる。（倉庫）

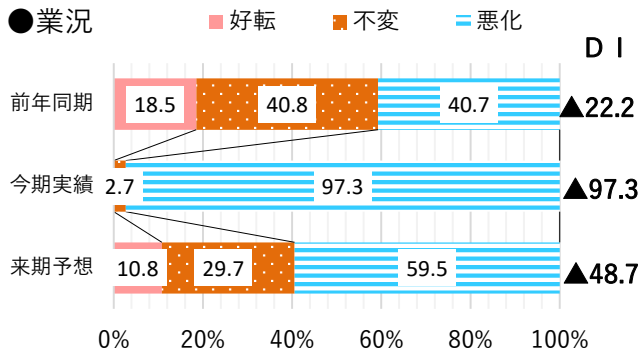
■新型コロナウイルスの影響が続くだろう。（水運）

観光業

業況、売上、採算

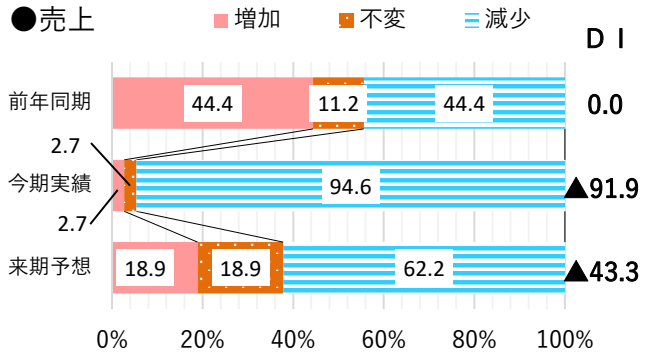
今期（2020.7～9）の業況判断DIは▲97.3で、前年同期(2019.7～9)と比べ75.1ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期（2020.10～12）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



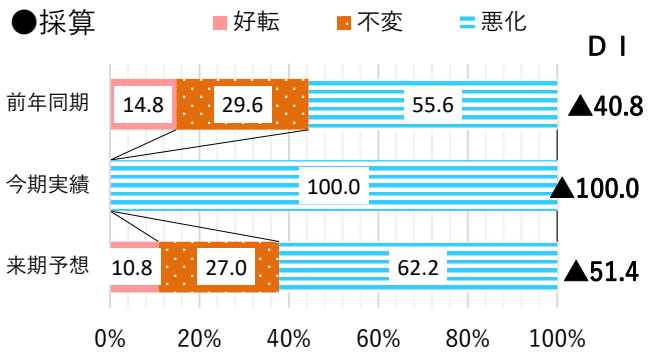
今期の売上DIは▲91.9で、前年同期と比べ91.9ポイント低下し、大幅に悪化しました。

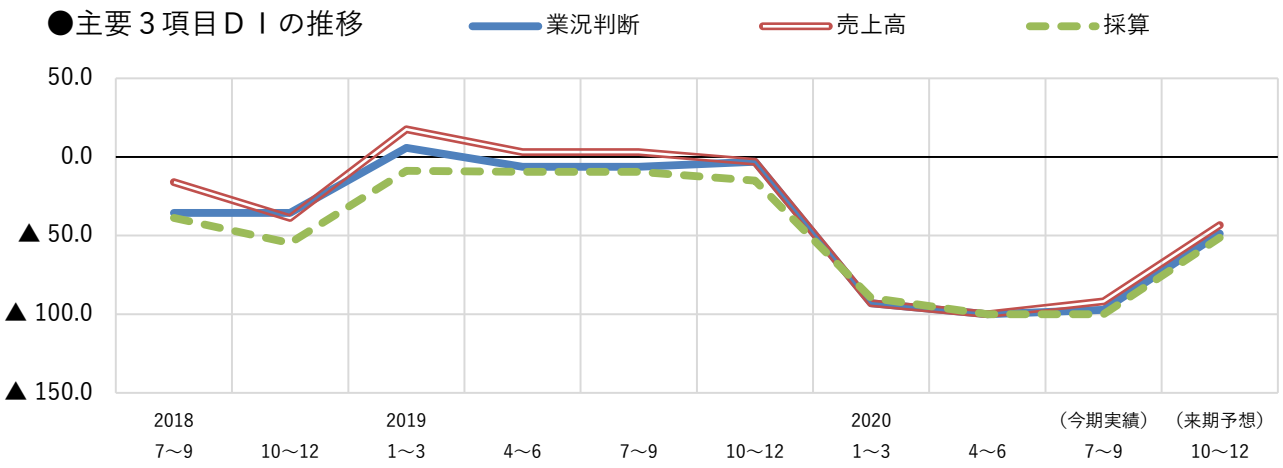
来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲100.0で、前年同期と比べ59.2ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。

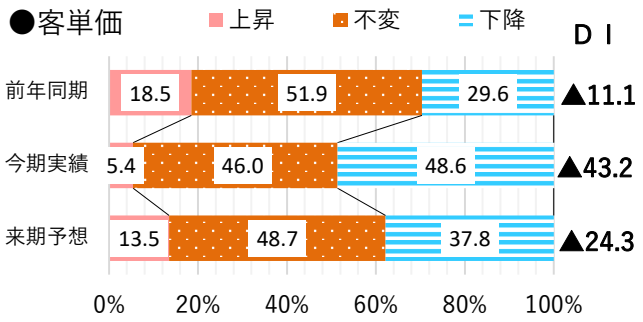




客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

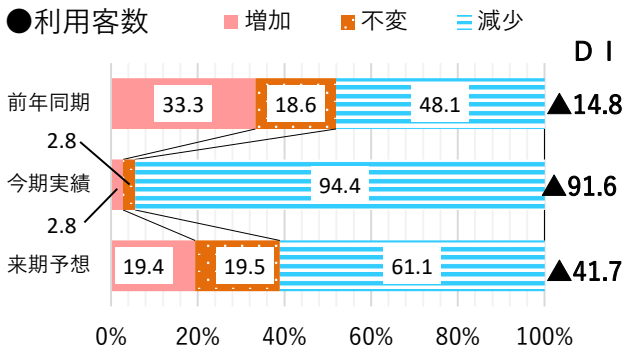
今期の客単価DIは▲43.2で、前年同期と比べ32.1ポイント低下し、大幅に下降しました。

来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



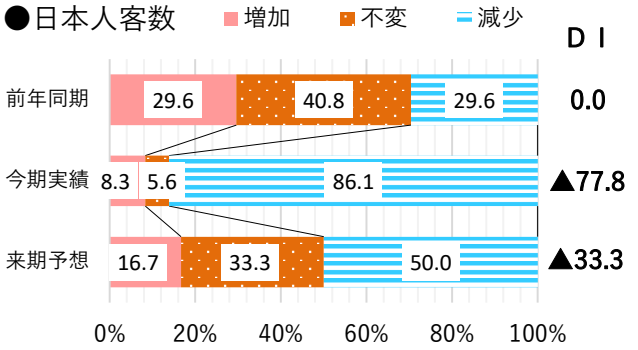
今期の利用客数DIは▲91.6で、前年同期と比べ76.8ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、利用客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



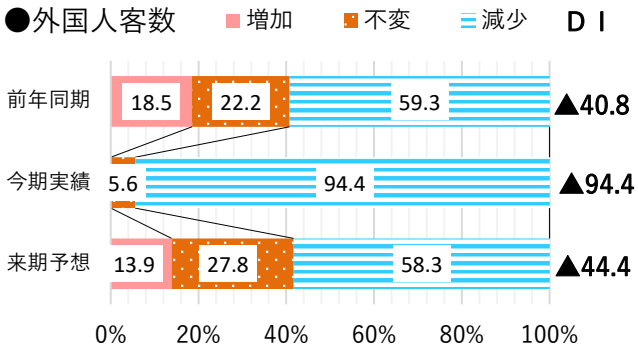
今期の日本人客数DIは▲77.8で、前年同期と比べ77.8ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、日本人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲94.4で、前年同期と比べ53.6ポイント低下し、大幅に減少しました。

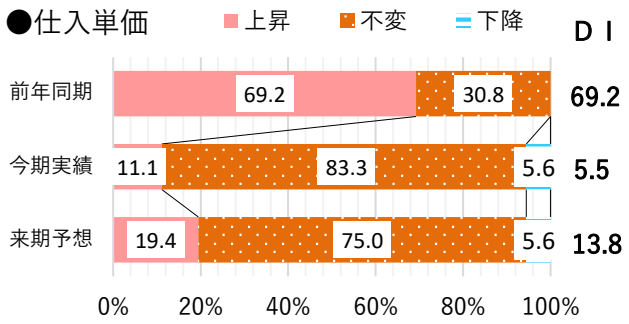
来期は、外国人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは5.5で、前年同期と比べ63.7ポイント低下し、大幅に下降しました。

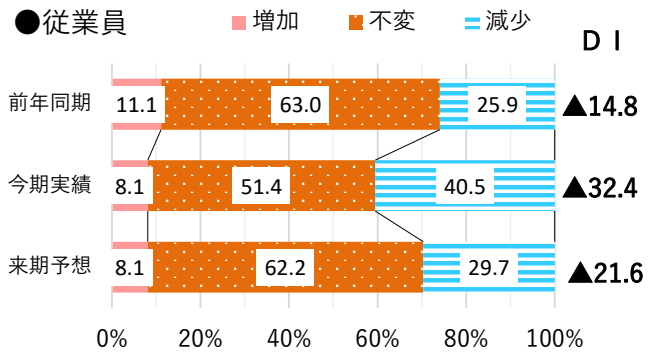
来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



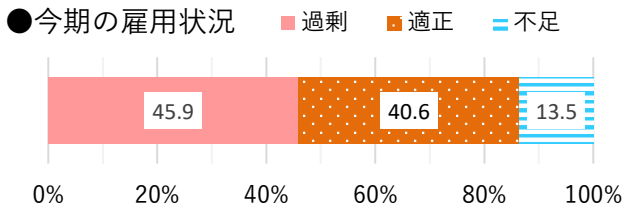
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲32.4で、前年同期と比べ17.6ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が続くと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は45.9%、適正であると回答した企業の割合は40.6%、不足していると回答した企業の割合は13.5%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、過剰である」（同位）という回答で、観光業全体の27.0%を占めています。

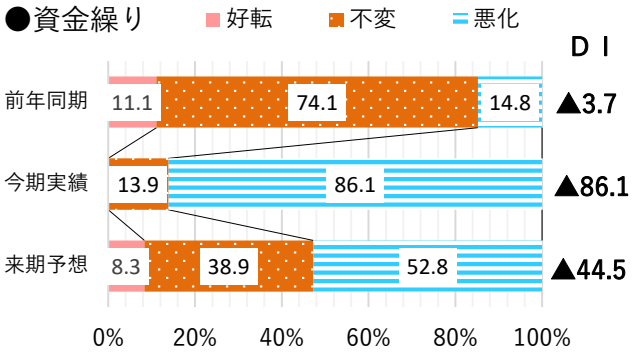
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、過剰である」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	1
不変だった	過剰	7
	適正	10
	不足	2
減少した	過剰	10
	適正	3
	不足	2

資金繰り、設備投資

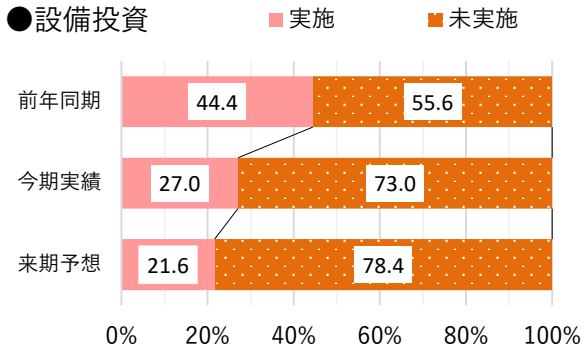
今期の資金繰りDIは▲86.1で、前年同期と比べ82.4ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は27.0%で、前年同期と比べて17.4%減少しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「建物」、「車両運搬具」、「ＯＡ機器」（同位）の順です。

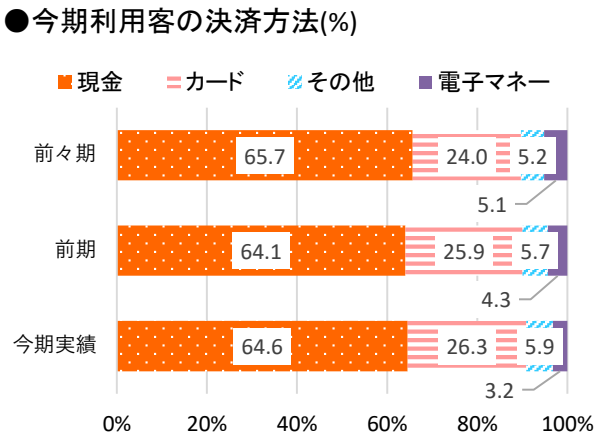
来期に設備投資を計画している企業の割合は21.6％で、減少を予想しています。



今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で64.6％、2位がカードで26.3％、3位がその他で5.9％、4位が電子マネーで3.2％となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、掛売り、旅行代理店からの銀行振込、クーポン券、グルメチケット、ネット予約によるポイントです。

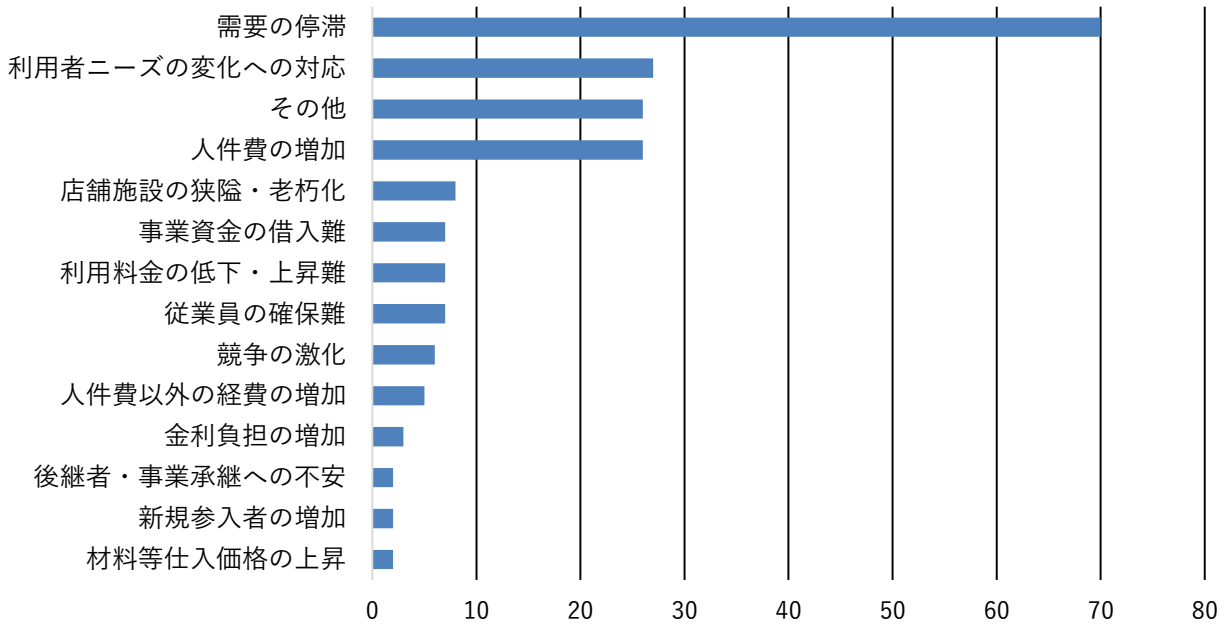


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は42.0%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、3位が「その他」、「人件費の増加」（同位）の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■回復はしてきたものの、依然として厳しい状況である。北海道のホテルは７～１０月が最大の稼ぎ時のため、今期が不調だと通年の業績は相当厳しくなる。昨年同期比での客室稼働率は、７月が５８．２％、８月が８９％、９月が９３．１％だった。（ホテル）

■東京都がＧｏＴｏトラベル事業の対象外となったため、道外からの旅行者が少ない。道内最大都市の札幌に近いため、札幌市民の宿泊増加も難しいのではないかと考えている。（ホテル）

■インバウンドがほぼゼロになり、国内客も売上が減少している。（ホテル）

■インバウンドの激減により、業況が悪化した。（ホテル）

■除菌作業や非接触対策などで人件費が増加し、売上は減少した。ＧｏＴｏキャンペーンや雇用調整助成金等に係る手続きも増加した。（コテージ・ペンション）

■新型コロナウイルスにより業況が悪化した。（コテージ・ペンション）

■客数と売上は回復しつつあるが、前年同期比の売上は３割減で推移しており、事業継続が難しくなりつつある。道内客は回復傾向にあるが、道外客は極めて少なく、収益性の高かったインバウンドの来店はゼロゼロの状態が続いている。収益の減少が非常に厳しい。（土産品）

■新型コロナウイルスにより、インバウンドはもとより国内観光客も少ない状況が続いている。（土産品）

■新型コロナウイルスによって客数が減少し、予約のキャンセルもあった。最悪の状況である。（土産品）

■新型コロナウイルスにより、売上が減少した。インバウンドは元々少なく、影響は小さい。（土産品）

■新型コロナウイルスが終息しないため、町中に人が少なく、苦しい状況である。（土産品）

■コロナ禍によって観光客が減少しているため、業況は悪化している。（土産品）

■日本人観光客の利用は増加したが、観光客の総数が圧倒的に少ないため、インバウンドの減少分を補えていない状況である。（飲食店）

■８月は例年の３分の１程度まで客数が回復したが、イベントがない日は通りが閑散としている。町中では学生の姿が増えてきたように思うが、当店には来ない。客引きが多く困っている。（飲食店）

■昼の客数は回復しつつあるが、宴会での利用やや夜の客数は厳しい状況が続くと思われる。（飲食店）

■観光の街として店づくりをしたので、観光客が来ないと業況は厳しい。（飲食店）
■新型コロナウイルスの終息が見えなければ経営が立ち行かなくなる。（飲食店）
■旅行会社の団体ツアーがキャンセルとなり、厳しい状況である。（飲食店）
■昨年８月はインバウンドの利用があり、３６件の利用で１１０万円の売上だったが、今年の８月は０件と厳しい状況にある。（レンタカー）
■客数の減少に伴い、昨年から営業時間を１時間短縮している。（レンタカー）
■新型コロナウイルス感染症によって、外国人観光客の減少が続いている。（娯楽業）
■４月から５月にかけての営業中止が影響し、採算の悪化が続いている。（娯楽業）
■新型コロナウイルスにより、利用客数と売上が減少している。（社会教育）
■新型コロナウイルスの影響で、観光船、駐車場ともに利用客が減少している。（船舶賃渡業）
■前期比の客数は増加したが、前年同期比では75％の減少となっている。インバウンドはほぼゼロの状況である。（水運業）

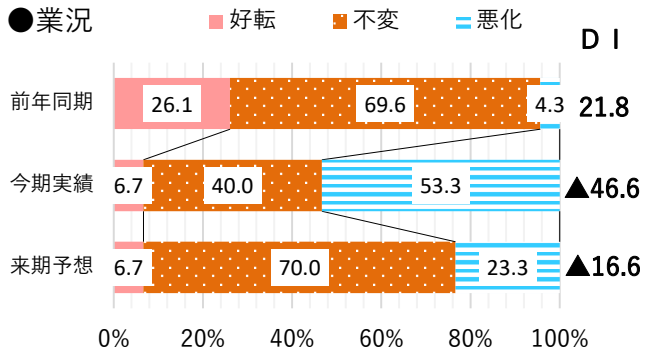
［来期の業況について］
■客室稼働率はやや改善する見込みである。（ホテル）
■道外からの観光客の回復は期待できない。（ホテル）
■増客は見込めない。（ホテル）
■ＧｏＴｏトラベル、どうみん割等のキャンペーンで多少回復すると思われる。（コテージ・ペンション）
■ＧｏＴｏキャンペーン等の効果に期待したい。（コテージ・ペンション）
■今期同様、客数は徐々に回復すると思われる。コロナ禍が短期間で劇的に回復するとは思われないので、資金繰り対策を前倒しで進める。数年先の状況も想定できないため、次の策も立てづらい。事業の継続そのものにまで踏み込んで、厳しく向き合わざるを得ない。（土産品）
■秋の行楽シーズン、年末を迎えるが、市内の新型コロナウイルス感染者が０人にならないので、年内は厳しい状況が続くと思う。（土産品）
■売上、利用客数共に増加傾向にあるが、元に戻る目途は立たない。（土産品）
■新型コロナウイルスの影響が続き、業況は悪化すると思われる。（土産品）
■コロナ禍により観光客が減少し、業況は悪化するだろう。（土産品）
■時短営業等に取り組み、客数の回復を待つ。（土産品）
■劇的な回復は見込めない。（土産品）
■状況は改善しないと思われる。新型コロナウイルスに対するワクチンが開発されるまで、人の動きが大きく変わることはないだろう。単発のイベントで一時的に客数が増加しても、継続した人の動きがなければ改善しない。（飲食店）
■新型コロナウイルス流行前の状況に戻らなければ、倒産も懸念される。外国人客や東京オリンピックの動向も気にかかっている。（飲食店）
■行政には、新型コロナウイルス対策と経済対策を並行して進めてほしい。（飲食店）
■売上は最低水準に達したので、回復に注力するしかない。（飲食店）
■インバウンドの回復と新型コロナウイルスの終息は、どちらも見通しが立たないため、今期と同様の状況が続くと思われる。（レンタカー）
■今期と同様の状況が続くと思われるので、業況の好転は見込めない。（レンタカー）
■国内外の旅行客の回復が予想されるため、業況は好転するだろう。（娯楽業）
■先が見通せない状況だが、業況は悪化すると思われる。（娯楽業）
■新型コロナウイルスによる影響はしばらく続くだろう。（社会教育）
■新型コロナウイルスの終息が見えないため、業況は予測できない。（船舶賃渡業）
■例年閑散期のため、売上は減少すると思われる。（水運業）

サービス業

業況、売上、採算

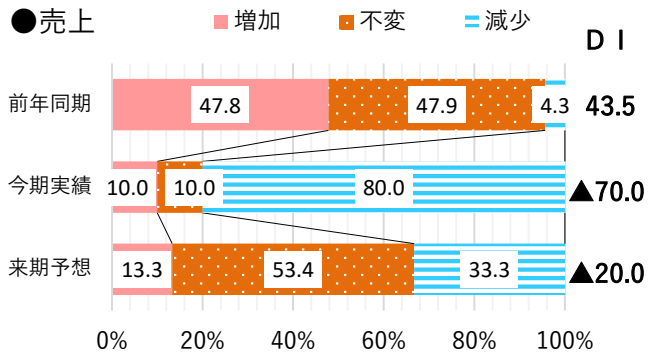
今期（2020.7～9）の業況判断DIは▲46.6で、前年同期(2019.7～9)と比べ68.4ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期（2020.10～12）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



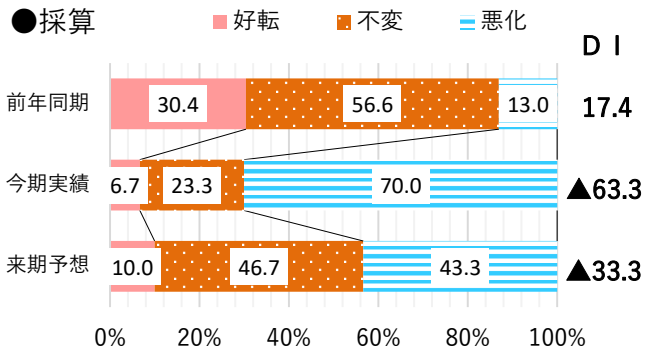
今期の売上高DIは▲70.0で、前年同期と比べ113.5ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

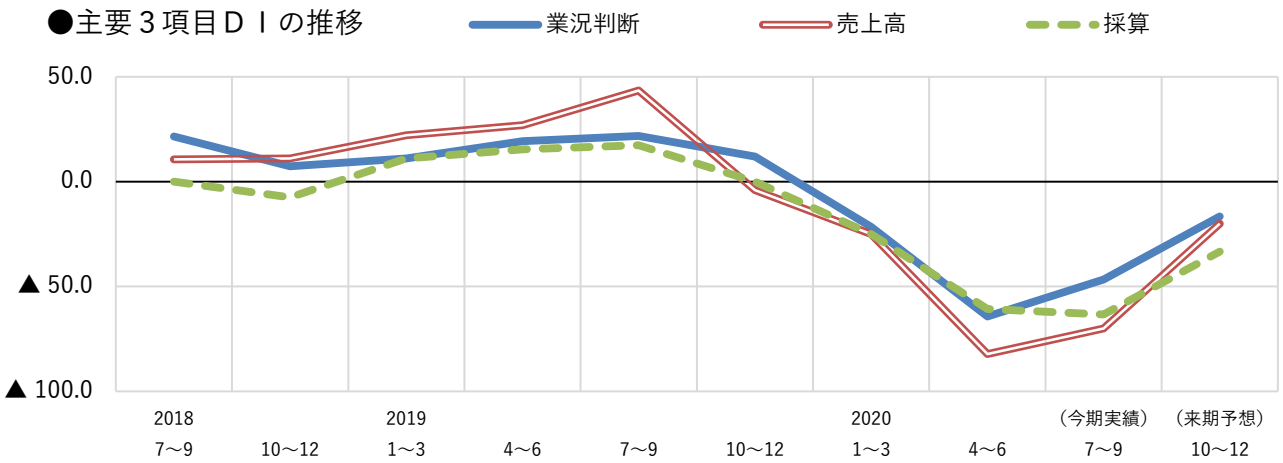
来期は、売上の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲63.3で、前年同期と比べ80.7ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。

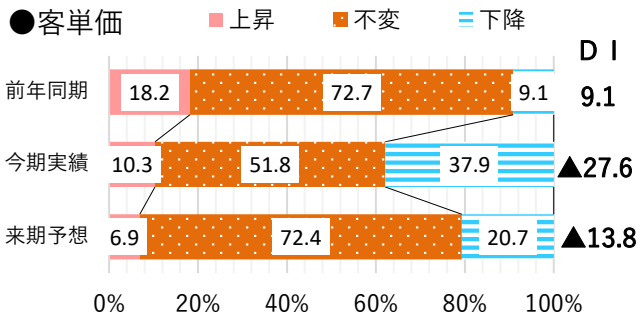




客単価、利用客数、仕入単価

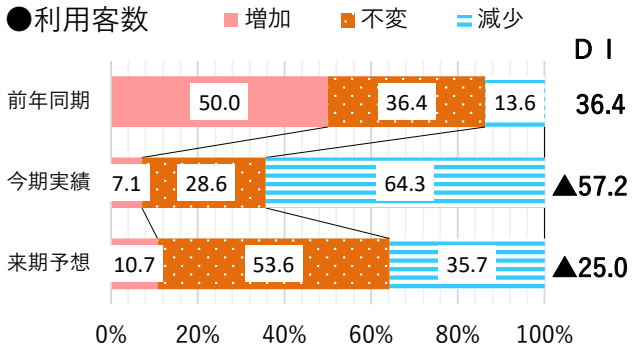
今期の客単価DIは▲27.6で、前年同期と比べ36.7ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



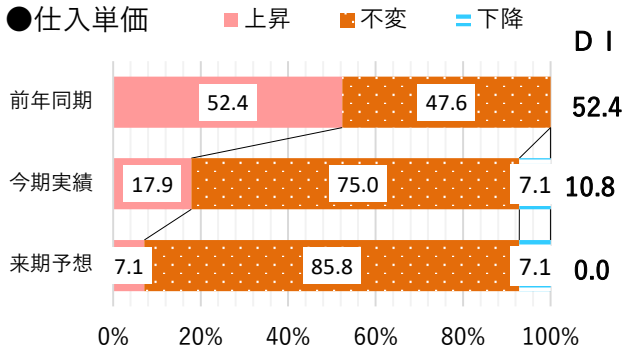
今期の利用客数DIは▲57.2で、前年同期と比べ93.6ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、利用客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは10.8で、前年同期と比べ41.6ポイント低下し、大幅に下降しました。

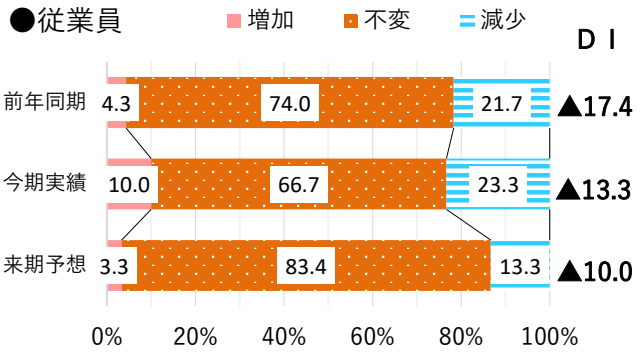
来期は、仕入単価の上昇傾向が落ち着くと予想しています。



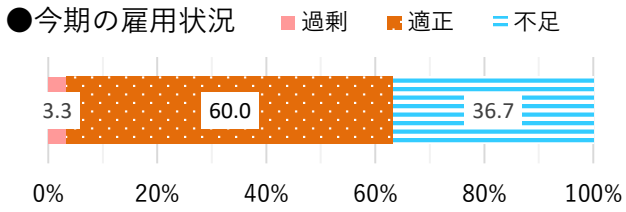
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲13.3で、前年同期と比べ4.1ポイント上昇しました。

来期は、従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.3%、適正であると回答した企業の割合は60.0％、不足していると回答した企業の割合は36.7%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の40.0%を占めています。

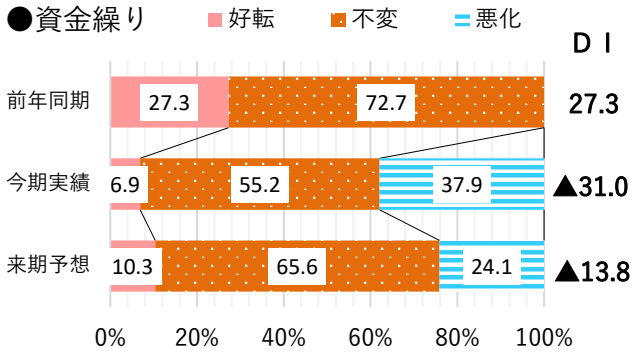
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	12
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	4

資金繰り、設備投資

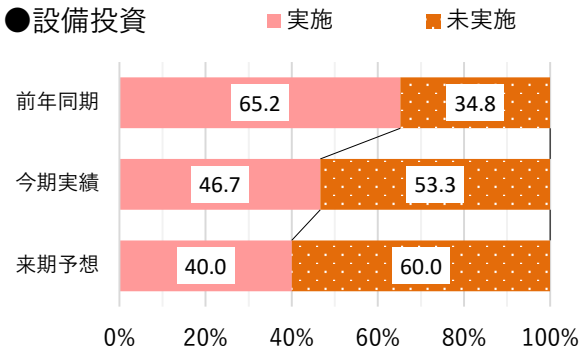
今期の資金繰りDIは▲31.0で、前年同期と比べ58.3ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



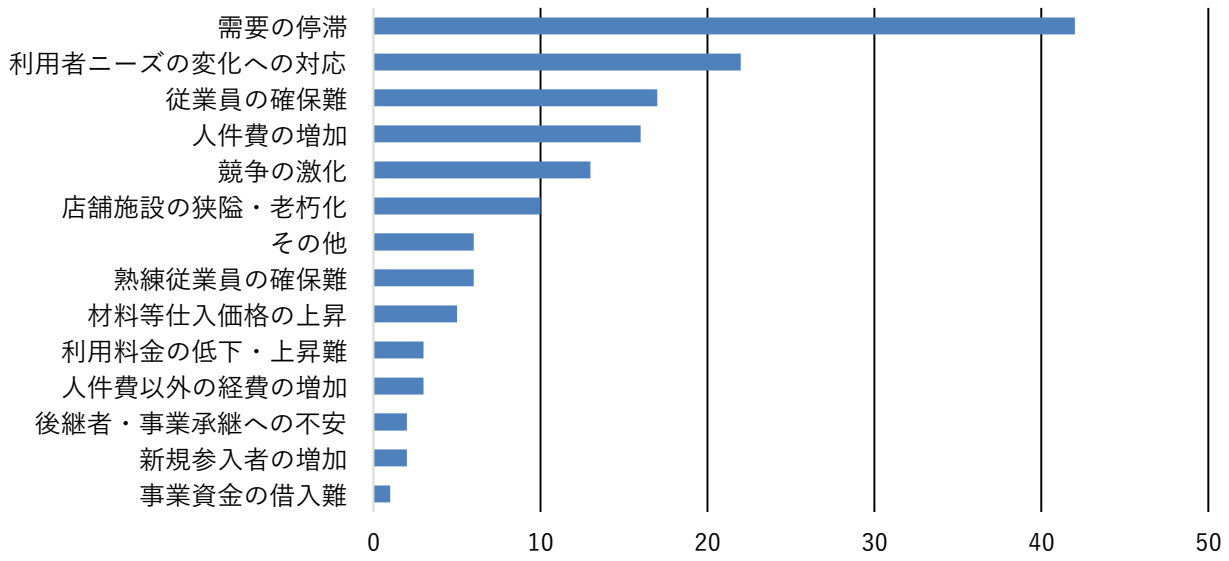
設備投資を実施した企業の割合は46.7%で、前年同期と比べ18.5%減少しました。投資内容は、1位が「ＯＡ機器」、2位が「車両運搬具」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は40.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■新型コロナウイルスの影響は思いの他根深く、市内で発生したクラスターによる客数減少が業況を大きく悪化させた。土日祝日は観光客によって下支えされているが、平日の落ち込みは緊急事態宣言時とほぼ変わらない。（飲食店）

■新型コロナウイルスの影響で、外国人客はほぼゼロとなった。本州からの来客は増加傾向にあるが、前年同期と比べるととても少ない。当分は地元客と道内客がメインになると思われる。（飲食店）

■駐車場利用台数は回復傾向にあるものの、昨年と比べ利用時間が短くなっている。（ビルメンテナンス）

■新型コロナウイルスの影響によって売上が減少している品目と増加している品目があり、トータルで売上の水準を維持している状況である。（各種物品賃貸業）

■新型コロナウイルスの影響で、修学旅行と道内の宿泊以外は何もない状況である。（旅行代理店）

■新型コロナウイルスの影響で、予約のキャンセルや利用客数の減少が生じている。消費税増税があったため、仕入価格は上昇した。人材、賃金の状況は変わっていない。（美容業）

■新型コロナウイルスの影響で、７月まで予約のキャンセルがあったが、８月以降回復傾向にある。雇用調整助成金により、雇用を確保できた。（スポーツ施設）

■前年同期比で客数が６０％減少し、材料費が２０％上昇した。（写真業）

■行事や宴会等人の集まりが減少したため、売上が減少した。（写真業）

■新型コロナウイルスの影響で業況が悪化した。利用客数は減少したが、仕入価格は不変だった。人材不足が課題である。（出版業）

■客数に変化は無いが、客単価が上昇した。（不動産代理・仲介業）

■契約内容の変更により売上額が減少した。（保険業）

［来期の業況について］

■業況の好転は期待できない。（飲食店）

■新型コロナウイルスの影響は続くが、医療関連のビジネスを行っているため、売上が見込める品目に力を入れる。人件費の増加が見込まれる。（各種物品賃貸業）

■新型コロナウイルスのワクチンが開発されなければ、大きな回復は難しいと思われる。（旅行代理店）

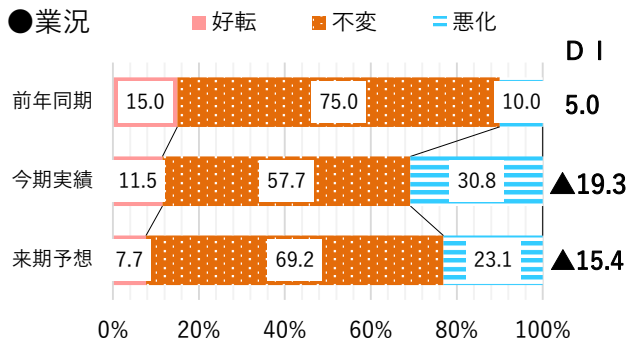
■新型コロナウイルスが流行する状況であっても、安心して来店できる取り組みが浸透しているため、現状より悪化することは無いと思われる。（美容業）
■利用者数の更なる増加を見込む。新型コロナウイルス対策に取り組む。（スポーツ施設）
■インバウンドの減少とイベントの縮小が続き、厳しい状況が予想される。（出版業）
■好転は期待できない。（出版業）
■社員数が変わらなければ、今期と同様の状況が予想される。（不動産代理・仲介業）
■市場の開拓により業況は好転すると思われる。（保険業）

建　設　業

業況、売上、採算

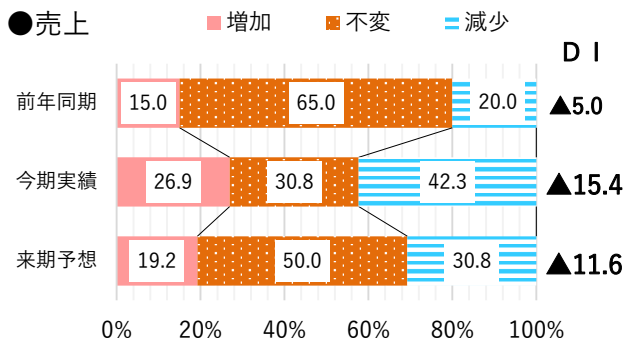
今期（2020.7～9）の業況判断DIは▲19.3で、前年同期(2019.7～9)と比べ24.3ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期（2020.10～12）は、業況の悪化傾向に大きな変化はないと予想しています。



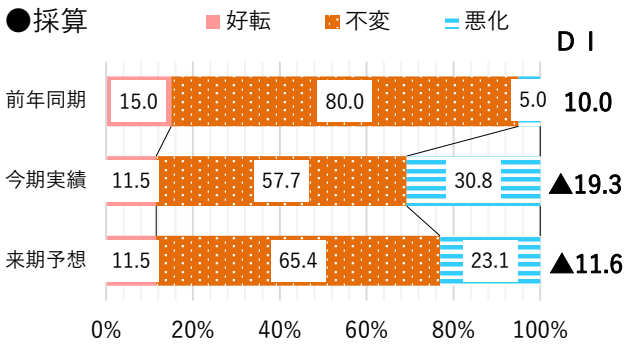
今期の売上高DIは▲15.4で、前年同期と比べ10.4ポイント低下しました。

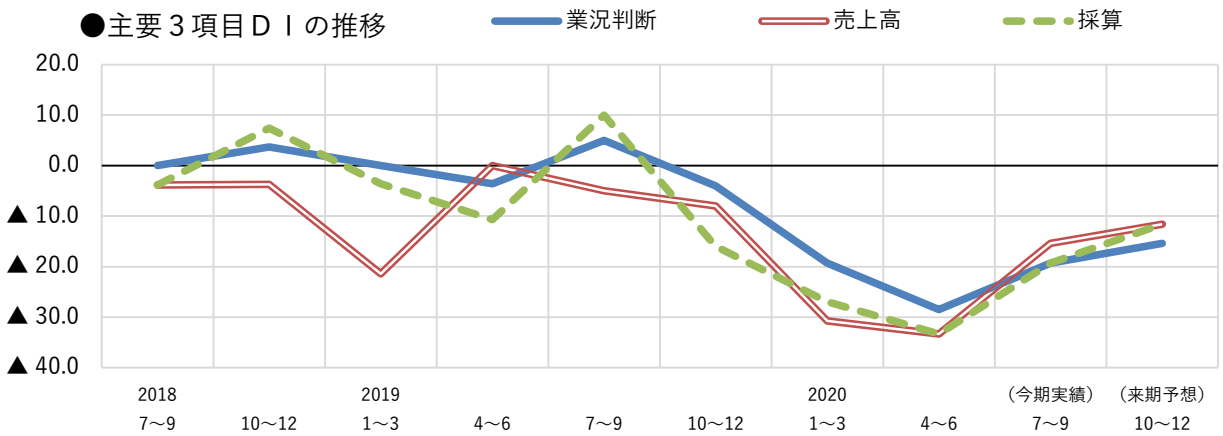
来期は、売上の減少傾向に大きな変化はないと予想しています。



今期の採算DIは▲19.3で、前年同期と比べ29.3ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。

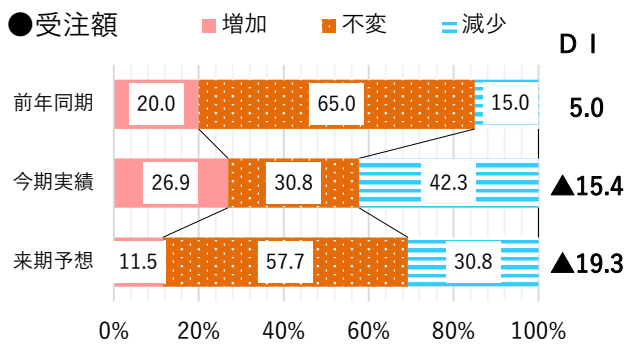




受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

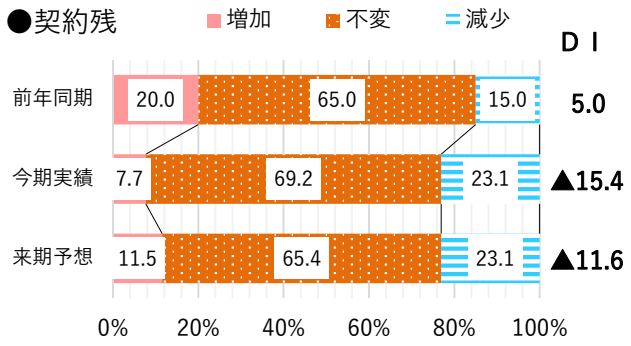
今期の受注額DIは▲15.4で、前年同期と比べ20.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、受注額の減少傾向に大きな変化はないと予想しています。



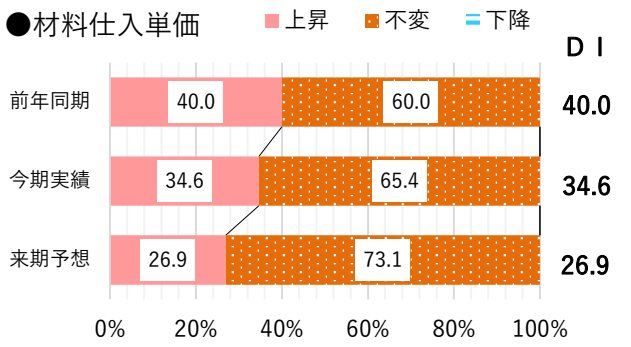
今期の契約残DIは▲15.4で、前年同期と比べ20.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、契約残の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは34.6で、前年同期と比べ5.4ポイント低下しました。

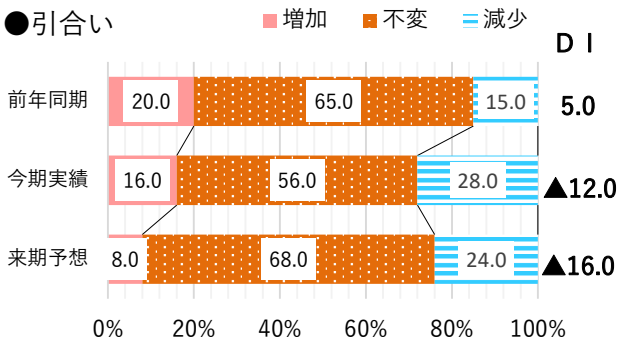
来期は、材料仕入単価の上昇傾向に大きな変化はないと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲12.0で、前年同期と比べ17.0ポイント低下し、マイナスに転じました。

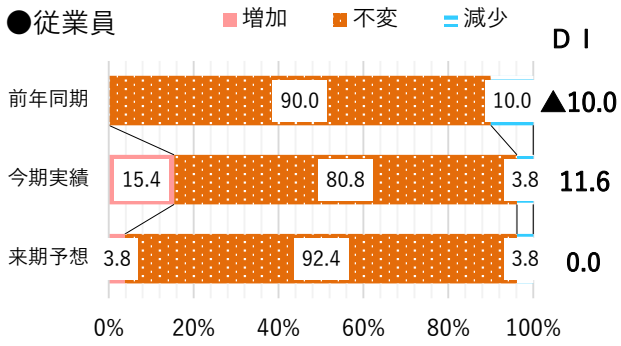
来期は、引合いの減少傾向に大きな変化はないと予想しています。



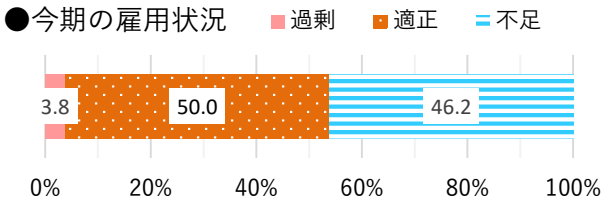
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは11.6で、前年同期と比べ21.6ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が落ち着くと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.8%、適正であると回答した企業の割合は50.0％、不足していると回答した企業の割合は46.2％でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、建設業全体の38.4%を占めています。

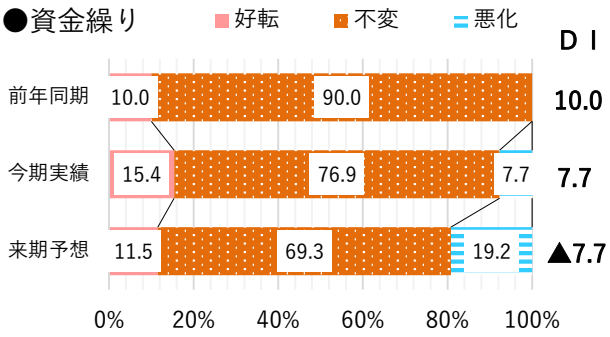
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	1
不変だった	過剰	1
	適正	10
	不足	10
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	1

資金繰り、設備投資

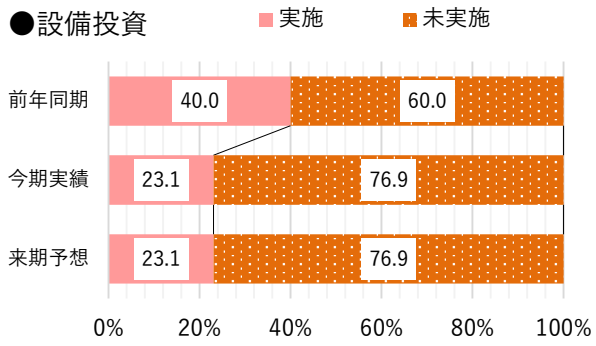
今期の資金繰りDIは7.7で、前年同期と比べ2.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りが悪化に転じると予想しています。



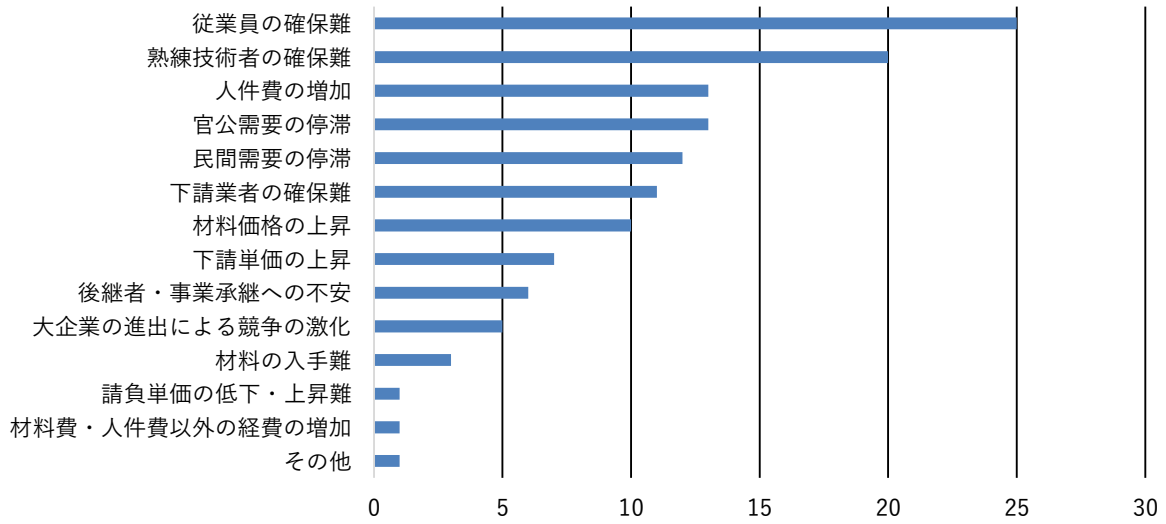
設備投資を実施した企業の割合は23.1%で、前年同期と比べ16.9%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、２位が「建物」、「ＯＡ機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は23.1%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「熟練技術者の確保難」、3位が「人件費の増加」、「官公需要の停滞」（同位）の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■完成工事額が減少した。人材確保に苦労している。（一般土木工事業）
■民間建築の受注が減少した。（一般土木工事業）
■前年同期と同程度の利益率を確保できた。（一般管工事業）
■新型コロナウイルスの影響で、店頭販売している商品の大半で売上が減少したが、一部商品は１５％ほど増加した。（職別工事業）
■完成工事額が１５～２０％減少した。（職別工事業）
■受注数は一定程度伸長したが、長期的には業界全体で完成工事額の減少が見込まれる。（設備工事業）
■新型コロナウイルスの影響で本州から届く材料が遅れ、工事のキャンセルや遅れが生じた。（造園業）
■人材不足が課題であり、改善の見通しが立たない。（電気工事業）

［来期の業況について］

■引合いの減少が続けば、受注は減少するだろう。（一般管工事業）
■完成工事額が更に減少するだろう。（職別工事業）
■一定程度の売上は見込めるが、新型コロナウイルスの状況により官庁からの受注が減少する可能性があるため、注視する。（設備工事業）

市内企業倒産状況

2020年7月~9月
負債１千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は1件、前年同期比減少
負債総額は1,700万円、前年同期比減少

倒産件数	負債総額
1件	**1,700万円**
前年同期比　件数　－1件 （前年同期　2件）	負債　－2億300万円 （前年同期 2億2,000万円）

■7月
なし

■8月
葬儀業（負債1,700万円：業績不振による破産）の1件が発生した。

■9月
なし

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2020年7月~9月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は90件、前年同期比増加
新設着工住宅戸数は67棟91戸、前年同期比減少

建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
90件	**67棟91戸**
前年同期比　件数　+4件 （前年同期　86件） ※変更確認又は変更通知を除く。	戸数　＋11棟-13戸 （前年同期　56棟104戸）